

令和6年度

富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報

富山市の遺跡物語 No.26



高来遺跡の石囲炉（近景（南西から）、遠景（北から））

浜黒崎キャンプ場の南側にある高来遺跡において、これまで遺跡が所在しないと思われていた層から縄文時代後期の石囲炉が発見されました。炉の周辺には黄色土の混じった黒色土が広がり、住居の床の痕跡と考えられます（詳細は4頁参照）。

目 次

I 史跡この1年	
1 北代縄文広場	2
2 婦中安田城跡歴史の広場	3
II 埋蔵文化財調査概要報告	
1 高来遺跡	4
2 呉羽富田町遺跡	5
3 黒崎種田遺跡	6
4 下邑東遺跡	6
5 富山城跡	7
III 令和6年度事業概要	
1 埋蔵文化財調査実績	8
2 遺跡地図管理	14
3 史跡の保護・管理	15
4 展示・普及	18
5 刊行物	19
6 活用	20
7 調査研究	20
8 研修等参加	22
9 組織・事業費	22
IV 研究報告	
1 古代北陸道の人面墨書き土器について 〔堀沢祐一〕	23
2 令和6年能登半島地震における富山藩主 前田家墓所（長岡御廟所）この1年について 〔鹿島昌也・納屋内高史・仲あづみ〕	31
3 杉谷A遺跡出土鉄器の歴史的意義と方形 周溝墓の築造動向 〔野垣好史・小黒智久〕	37

I 史跡この1年

1 北代縄文広場

北代縄文広場は、平成11(1999)年4月に開場し、令和6(2024)年4月に25周年を迎えました。開場以来、歴史学習の場として、約227千人(令和7年2月末現在)の方々にご利用いただいています。

(1) 北代縄文広場ボランティアの会が「富山県功労表彰」を受賞されました。

北代縄文広場ボランティアの会は、縄文広場が開場する際に地元の長岡地区自治振興会により組織されました。日ごろから来場者に対し北代遺跡の縄文集落の解説や体験学習の補助等を行っています。

令和6年11月3日に、本会はこれまでの北代縄文広場の環境維持や普及活動に尽力するなど地域文化の発展に寄与していることが評価され、「富山県功労表彰」を受賞されました。



富山県功労表彰の表彰状と盾

(2) ミニ企画展「新寄贈品展2 北代遺跡の縄文土器」(7/23~1/19)を開催しました。

この展示では、市民の方が昭和40年ごろに北代遺跡で採集され、令和5年度に富山市へ寄贈された土器や石器など244点の中から、縄文時代の土器や土製品、石器92点を紹介しました。

寄贈品は、北代遺跡が昭和59年に史跡指定される前に現在の復元建物3が整備されているあたりで採集された貴重な資料です。

寄贈された土器には、これまで北代遺跡では出土量の少なかつた縄文時代後期の土器が含まれ、北代遺跡の縄文後期を考えるための手がかりになります。



寄贈品展示の様子(一部)

(3) ミニ企画展「青江コレクションによる北代遺跡」(1/21~7/21)を開催しています。

この展示では、故青江清行氏が長年にわたって富山県内や岐阜県各地で採集され、平成6年度に富山市へ寄贈された青江コレクションの北代遺跡採集遺物762点の中から、縄文時代の土器や土製品、石器、石製品68点を紹介しています。

青江コレクションは、富山県や岐阜県内の土器や石器などの考古遺物4,350点と図書類で構成され、富山県の考古学を研究する上で貴重な資料です。遺物の多くには採集地が記録されており、青江氏が真摯に遺物収集に取り組んだ姿勢を知ることができます。遺物数の多さや種類の豊富さも重要ですが、遺物の採集記録が正確に残されていることが、その資料価値をより一層高めています。



展示の状況

(4) 夜の竪穴建物見学と星空観察(8/23)を開催しました(悠久の森2024サテライト会場)。

北代縄文広場開場25周年を記念して、電気のなかった縄文時代の生活の雰囲気を味わっていただこうと、普段夜間は閉めている復元竪穴建物を特別に開放しました。あわせて科学博物館の学芸員の解説による星空観察会を開催し、親子など23名が参加されました。

当日は雲が多く、思うように星は見えませんでしたが、縄文時代の星空は、現在の星空と違って見えていたことなどをわかりやすく話していただきました。



竪穴建物見学の様子

(5) 北代縄文考古楽講座(8/3・10/26)を開催しました。(15頁参照)

本講座は、考古学や縄文時代、郷土富山の歴史・文化など様々なジャンルをテーマに、受講生が楽しく学ぶことを目的とした講座です。

本年度は「縄文人と犬との関わり」や、「縄文時代の始まり」をテーマとして講座を2回行いました。

令和6年10月26日に開催した講座では、麻柄一志氏(魚津市教育委員会文化財保存・市史編纂専門員、愛知学院大学文学部講師)をお迎えし、旧石器時代から縄文時代がどのようにして始まったのかについて、16,000年前から始まった気候や自然環境の変化に人類が適応していった様子を、発掘調査の事例や最新の研究成果を基にわかりやすく解説していただきました。

(細辻嘉門)



麻柄氏による講座

2 婦中安田城跡歴史の広場

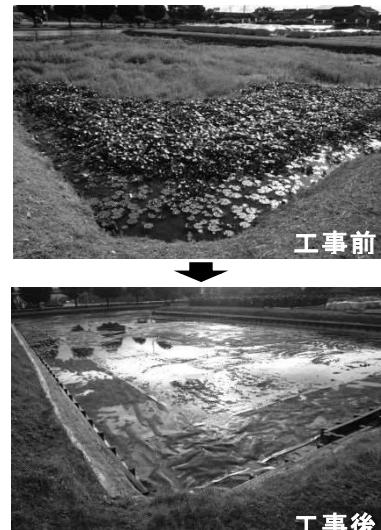
(1) 安田城跡再整備事業

再整備工事の4年目となる令和6年度は、令和4・5年度に引き続き、堀の改修を行いました。右の写真は工事前後の堀の様子です。工事前は、堀一面に繁茂した水生植物が腐植して堆積した底泥が水面から広く露出して、水堀であったことが理解しづらい状態となっており、また底泥によって水流が堰き止められて堀の水質も悪化していました。そのため、工事では、堆積した大量の底泥を除去して水堀の景観を取り戻しました。また、再整備後に維持管理をしやすくするため、農業用水からの給水口がある上流側の堀には、隣接の堀に泥を拡散させないための堰^{せき}を設け、また堰には切り欠きを設けて必要時に池干しができるように工夫しました。

そのほか、富山県中央植物園のご協力のもと、再整備で堀に植えるカキツバタの栽培も進めています。堀で実施している植栽試験ではプランターを用いた可動式の植栽方法を追加して、再整備でのより良い植栽方法を模索中です。

なお、今年度事業も再整備検討会議の指導・助言を受けて進めました。

(大野英子)



氏名	所属
西井龍儀	富山考古学会理事、一級建築士
高岡 徹	とやま歴史的環境づくり研究会代表
古谷 元	富山県立大学工学部環境・社会基盤工学科 教授
黒田啓介	富山県立大学工学部環境・社会基盤工学科 教授
中田政司	富山県中央植物園長
中村只吾	富山大学学術研究部教育学系 准教授
樋尾正樹	富山市公園緑地課長

安田城跡再整備検討会議の専門家(敬称略)

(第9回: R6.11.27、第10回: R7.2.17)

(2) 歴史講座「秀吉の越中出陣と関連城郭～安田城・白鳥城・大峪城～」(16頁参照)

令和6年11月9日、安田城跡歴史講座を開催しました。第1部の講座では、秀吉の越中出陣に関連する城郭である安田城・白鳥城・大峪城について、過去の発掘調査から確認された城の構造や出土遺物、当時の時代背景などについて解説しました。

また、第2部の安田城跡再整備工事現場見学では、堀内に設置した延長約80mの重機走行用の仮設道を歩きながら工事の状況を説明したり、右郭の仮設ヤードでは底泥を詰めた大型土のう袋が大量に並ぶ光景をご覧いただいたりと、再整備工事中ならではの史跡見学を体験していただきました。

(大野英子・宮田康之) 土橋に設置した堰の解説を聞く参加者



1 遺跡のあらまし

遺跡は、常願寺川河口付近の左岸に位置し、標高 2.5m 前後の海岸砂丘上に立地する、縄文・古代の集落跡です。調査地は浜黒崎キャンプ場の南側、海岸から 250m 離れた海辺のごく近くに位置します。

本遺跡はこれまでに本格的な発掘調査が行われたことはありませんが、周辺では、南に約 1 km 離れた浜黒崎野田・平榎遺跡で縄文時代晚期の捨て場が見つかる等、常願寺川左岸の自然堤防に沿って縄文時代後・晚期の遺跡が分布しています。また、常願寺川を挟んで対岸に位置する水橋荒町・辻ヶ堂遺跡では、弥生時代後期の方形周溝墓が見つかるとともに、縄文時代中期の土器が見つかり、縄文時代中期から人々が暮らしていたことが明らかになっています。

2 調査の概要

今回の調査は、市道改良工事に伴い、25 m²を発掘しました。調査の結果、縄文時代後期初頭、同後期前葉、古代という 3 時期の遺構面を確認しました。

縄文時代後期初頭の遺構面は、現地表面から 90~120 cm 下の灰白色の砂地の上に形成されており、土坑が 4 基見つかりました。後期前葉の遺構面は、現地表面から 60 ~130 cm 下、後期初頭の遺構面の上に 20~30 cm の厚さで堆積する黒色土の上に形成されており、長軸 75 cm、短軸 60 cm の楕円形の石囲炉が 1 基見つかりました。石囲炉の周囲には北へ 2.3m、南へ 3.4m の範囲で黄色土の混じった黒色土が堆積し、住居の床の痕跡の可能性があります。また、この遺構面の北端付近で見つかった後期前葉の遺物を中心に中期後葉～晚期中葉の遺物を含む堆積層は、付近に存在した後期前葉の堆積層が晚期中葉段階に洪水で流され、再堆積したものと考えられます。

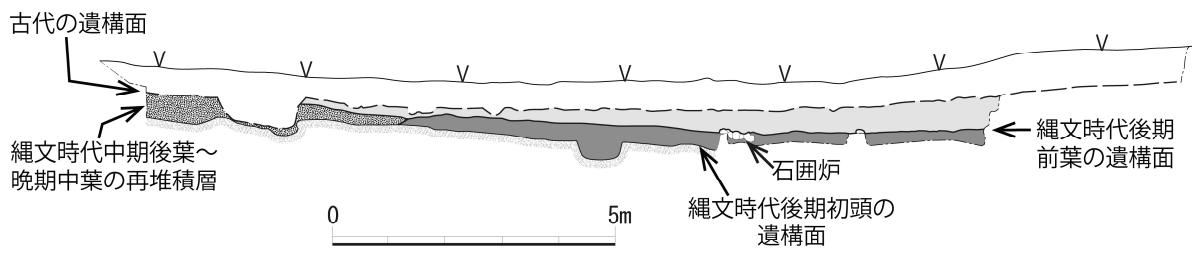
古代の遺構面は、現地表面から 40~70 cm 下、後期前葉の遺構面の上に 20~80 cm の厚さで堆積する黄褐色のシルト質の土の上に形成されており、溝や土坑などが 24 基見つかりました。また、この古代の遺構面の下から縄文時代の大型石棒が出土しました。石棒の周囲に穴を掘って埋



各遺構面における遺構検出状況
(北から)



大型石棒出土状況 (北西から)



めた痕跡が見られないことから、縄文時代晩期中葉以降、洪水等により黄褐色のシルト質の土が堆積した際に、付近の縄文時代の堆積層から流されてきたと思われます。

出土遺物は、縄文土器、須恵器、土師器などの土器類のほか、磨製石斧や石錐、大型石棒、磨石などがあります。縄文土器は大半が後期前葉の氣屋式と考えられますが、最下層の遺構からは後期初頭の前田式の可能性のある土器も出土しています。また、調査区北端付近で見つかった再堆積層からは、氣屋式以外に中期後葉の串田新式や後期後葉の井口式、晩期中葉の中屋式もごく少量出土しています。大型石棒は長さ 70cm で、形状から縄文時代中期～後期前葉と考えられます。須恵器は、奈良時代のものが出土しています。



出土した土器・石器

須恵器は、奈良時代のものが出土しています。

3 数少ない海岸部の縄文時代後・晩期の集落発見例

今回見つかった石圓炉は、縄文時代後期前葉のものとして富山平野の海岸部で初めての発見であり、この時期に富山平野の浜辺付近に集落が形成されていたことを示します。これまでに富山湾沿岸の遺跡は、縄文時代後・晩期になると低地に分布を拡大することが知られていましたが、遺構の検出例が少なく、集落形態や居住実態が不明確な状況にあります。今回の調査で見つかった縄文時代後期前葉の遺構・遺物は、富山湾沿岸の縄文時代後・晩期の集落や人々の生活を考える上で重要な資料といえます。

(納屋内高史)

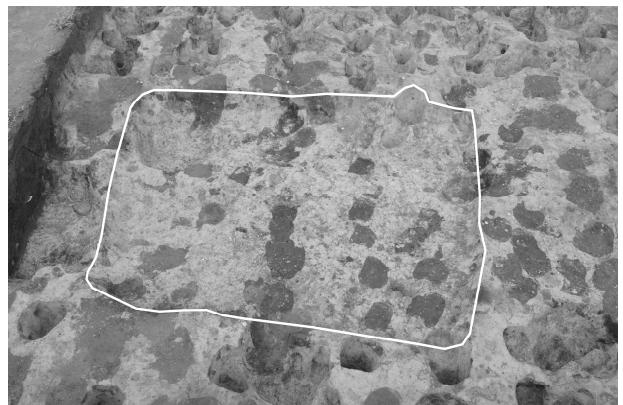
調査概要報告 2 遺跡北東部で竪穴建物を検出

呉羽富田町遺跡

(北代地内)

1 遺跡のあらまし

遺跡は、呉羽丘陵北西に広がる北代台地上の標高約 16m に立地します。遺跡北西部では、奈良時代末から平安時代前期の竪穴建物 4 棟が見つかっています。遺跡北東部では、平安時代の掘立柱建物 5 棟が見つかっています。



竪穴建物（西から）

2 調査の概要

個人住宅建築工事に伴い、96 m²を対象に遺跡北東部で発掘調査を行いました。その結果、平安時代の土師器、須恵器、鉄滓が出土し、竪穴建物 1 棟、土坑などが見つかりました。

竪穴建物の規模は、長軸 2.70m × 短軸 2.35m の隅丸長方形です。東壁南寄りに造りつけカマドが備わっています。

竪穴建物は、試掘調査でも 2 棟見つかっています。遺跡北東部では、掘立柱建物しか見つかりませんでしたが、今回初めて竪穴建物も見つかったことで、遺跡の北西部同様、北東部にも竪穴建物を伴う集落があることが分かりました。

(堀内大介)

調査概要報告3 河川への土器廃棄

黒崎種田遺跡

(黒崎地内)

1 遺跡のあらまし

遺跡は、熊野川右岸に位置し、標高約20mの緩やかな扇状地に立地します。調査区のすぐ北には北陸自動車道富山ICがあります。これまでの調査で、古墳、奈良・平安、中世、近世の集落遺跡であることがわかっています。富山ICを挟んで隣接する黒瀬大屋遺跡と本遺跡からは、郡衙などの古代の役所から出土することが多い墨書土器、暗文土器、綠釉陶器、灰釉陶器、馬形などの遺物が出土しています。

2 調査の概要

倉庫・事務所建築工事に伴い、68m²を対象に発掘調査を行いました。その結果、古代の河川跡が見つかりました。その河川へ土師器、須恵器、土錘などの遺物が廃棄されていました。

その中から墨書土器が1点見つかりました。須恵器の無台坏の裏底に「男人(勇人の可能性もあり)」と書かれています。「男人」は古代の男性に付けられる名前であり、周囲に古代の役所があったとすると、そこで働いていた役人の名前の可能性が考えられます。

(堀内大介)



墨書土器「男人」
(※墨書部分を白く縁取り)

調査概要報告4 奈良～平安時代の集落を新たに確認

下呂東遺跡

(婦中町羽根地内)

1 遺跡のあらまし

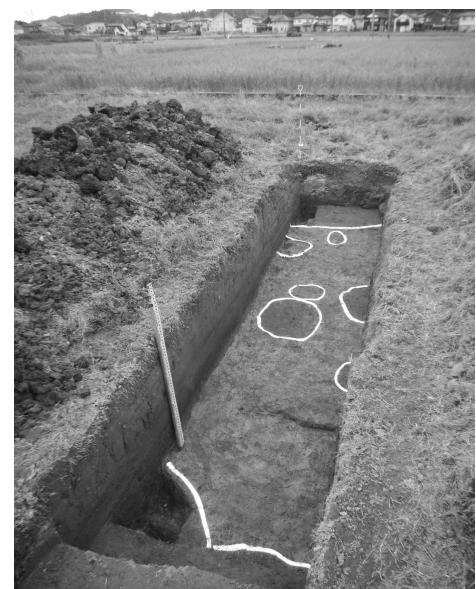
遺跡は、西を羽根丘陵、東を山田川に挟まれた平野部にあり、標高は約20mです。南北約1.6kmに及ぶ長い遺跡で、今回の調査地はその南端部に位置します。

2 試掘調査の成果

県営ほ場整備事業に伴い約4haを対象に試掘調査を行ったところ、奈良～平安時代の集落跡が広範囲で見つかりました。出土遺物は、土師器・須恵器等の日常雑器が多く出土しています。当時、集落の西側に小さな川が流れていたこともわかり、川からは捨てられた多くの土器が出土しました。また、一部地点では弥生土器もまとめて出土したことから、近くに弥生時代の遺跡が存在した可能性があります。

本遺跡では、これまで遺跡の北部で奈良～平安時代を中心とする集落跡が確認されていました。一方、今回の調査地を含む南部では、遺構は確認されていませんでしたが、今回の調査によって新たに集落を確認することができました。

(野垣好史)



奈良・平安時代の遺構 (白線部分)

1 遺跡のあらまし

調査地は、富山城址公園の東、城址大通りに面して位置します。富山城は、旧神通川右岸の河岸段丘、標高約8mに立地し、本丸と西ノ丸は、城址公園となっていますがそれ以外は近代以降、市街地化されています。

調査地点は、富山城下絵図(江戸後期)では、東出丸と三ノ丸の間に東西方向に外堀が描かれており、試掘調査では、深さ3m以上の堀跡がみつかりました。

2 調査の概要

(仮称) ビジネスホテル富山総曲輪新築工事に伴い、令和6年1月から3月にかけて103.89m²の発掘調査を実施しました。幅17m以上、深さ約4.5mの外堀の南肩斜面がみつかり、堀の位置を特定することができました。城の東側に位置する外堀の規模が発掘調査によって判明したのは初めてです。堀の南肩斜面には堀底へ降りるための段状の窪みを確認しましたが、どいいいった目的で設けられたかは不明です。堀の南肩上部は、版築状に土盛りがされており、寛文期の絵図(1663年頃)には描かれていませんが延宝期の絵図(1677年)にみえる土壘の基底部の可能性があります。

土壘基底部の下層から中世の土師器皿が多数出土する土坑がみつかりました。中世から近世の富山城の土地利用の変遷をうかがい知ることができます。

3 外堀からの出土品

外堀の埋土からは中世～近代にかけての陶磁器や瓦、木製品(漆器・下駄・曲物・護岸の板材など)、獸骨(牛の^{すね}・貝類など整理箱40箱もの遺物がみつかりました。

寛永16(1639)年に加賀藩から富山藩が分藩する前の近世初期(慶長期)に製作された、梅鉢文軒丸瓦(直径13.5cm)が出土しました。この瓦は、加賀藩2代当主前田利長が隠居城とするために富山城を整備した際の建物に葺かれていたとみられます。堀の底近くからは17世紀の越中瀬戸や初期伊万里(1630～40年製)のほかに19世紀初頭頃までに製作された伊万里なども出土しており、この場所では加賀藩の頃から富山藩の藩政期を通じて外堀としての機能が維持されていたことを物語っています。



富山城下絵図にみる調査地位置(○印)
富山市郷土博物館蔵



発掘された外堀(北東から)白点線が南肩



慶长期軒丸瓦

(鹿島昌也)

III 令和6年度事業概要

1 埋蔵文化財調査実績

(1) 発掘調査 開発に伴い遺跡を記録保存することなどを目的とした調査です。

遺跡名 (遺跡No.)	所在地	調査原因	面積 (m ²)	調査結果	遺跡の種類
高来(2010045)	浜黒崎	市道浜黒崎7号線 改良工事	25	縄文建物、縄文土坑、古代溝、古代 土坑／縄文土器、縄文磨製石斧、縄 文石錘、縄文石棒、縄文叩石、縄文 剝片、縄文骨、古代土師器、古代須 恵器	集落
吳羽富田町 (2010182)	北代字伊佐波	個人住宅建築	96	平安堅穴建物、平安土坑、平安ピット、不明土坑、近現代穴／平安土師 器、平安須恵器、平安鉄滓、江戸陶 磁器、不明鉄製品（釘）	集落
黒崎種田(2010550)	黒崎字塚田割	倉庫・事務所建築	68	古代自然流路／古代土師器、古代 須恵器、古代土錘、中世土師器	集落
計3件			189		

令和5年度補遺(3月分)

遺跡名 (遺跡No.)	所在地	調査原因	面積 (m ²)	調査結果	遺跡の種類
富山城跡 (2010442)	総曲輪一丁目	ビジネスホテル 建築	103.89	中世土坑、江戸堀／中世土師器、 中世鉄製品、江戸陶磁器、江戸瓦、 江戸土製品、江戸木製品（曲物、 漆器、下駄、板、杭）、江戸種実、 江戸牛骨、近代陶磁器、近代ガラ ス瓶、近代レンガ、近代貝類、近 代硯、近代動物骨、近代魚骨	城館
計1件			103.89		

(2) 試掘調査・工事立会 開発予定地内の遺跡の有無などを確認する調査です。＊は工事立会

遺跡名 (遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(m ²)	調査結果
打出(2010002)＊	打出	打出排水路災害復旧 修繕	2	遺跡なし
四方北窪 (2010004)	四方西岩瀬	個人住宅建築	241.77	不明溝／なし
日方江(2010011)	日方江	個人住宅建築	125.74	不明土坑／弥生土器、江戸越中瀬戸
今市(2010023)	八幡	駐車場造成	200	弥生土器、江戸越中瀬戸
今市(2010023)	布目	個人住宅建築	204.77	江戸越中瀬戸
今市(2010023)	八町東	個人住宅建築	295	遺跡なし
今市(2010023)	布目	個人住宅建築	222.14	不明穴／古代須恵器、不明土師器、不明鉄滓
今市(2010023)	八町	個人住宅建築	744.7	縄文土坑、弥生土坑、古代大溝、古代 溝、中世井戸、中世土坑／縄文土器、 弥生土器、古代須恵器、古代土師器、 中世土師器、中世八尾、中世珠洲、江 戸磁器、不明土人形
今市(2010023)	布目	個人住宅建築	248.91	遺跡なし
今市(2010023)	寺島	土地改良総合整備事業 寺島地区区画整理工事	20,991	古代土師器、江戸陶磁器
今市(2010023)	布目	個人住宅建築	255.64	不明土坑／なし
今市(2010023)＊	八町東	送電用鉄塔建設	77.44	不明溝／なし

遺跡名 (遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(m ²)	調査結果
今市(2010023) *	寺島	土地改良総合整備寺島地区水利整備	37.5	遺跡なし
今市(2010023) *	八町東	市道八町布目線改良工事	20	不明溝／なし
蓮町(2010033)	蓮町五丁目	個人住宅建築	330.66	遺跡なし
米田大覚 (2010034)	米田町一丁目	個人住宅建築	305	遺跡なし
浜黒崎飯田 (2010041)	浜黒崎字飯田	個人住宅建築	674.64	江戸溝／古代須恵器、江戸伊万里、江戸陶器、江戸木製品
浜黒崎悪地 (2010044)	浜黒崎	個人住宅建築	86.12	江戸伊万里
横越(2010046)	横越	駐車場造成	1,294	不明溝／なし
宮条南(2010055)	野中	個人住宅建築	54	古代溝、古代穴／弥生土器、古代土師器、古代須恵器、江戸陶器
水橋荒町・辻ヶ堂 (2010056) *	水橋辻ヶ堂	水橋辻ヶ堂地区排水管布設工事	30	遺跡なし
水橋荒町・辻ヶ堂 (2010056) *	水橋辻ヶ堂	下水道管布設工事	87.5	不明大溝、不明溝／江戸越中瀬戸
水橋荒町・辻ヶ堂 (2010056) *	水橋辻ヶ堂	市道水橋辻ヶ堂新道6号線改良工事	44	遺跡なし
水橋永割 (2010063)	水橋館町字養道寺	資材置場造成	765	弥生土器、古代須恵器
小出城跡 (2010066) *	水橋小出	県道側溝工事	150	遺跡なし
願海寺城跡 (2010091)	願海寺	個人住宅建築	288.22	中世溝／中世土師器
願海寺城跡 (2010091) *	願海寺	下水道工事	20.1	不明溝(堀)、不明土坑、不明ピット／江戸磁器、不明建築部材
願海寺城跡 (2010091)	願海寺安ノ口	個人住宅建築	354	中世～江戸堀(溝)、中世～江戸土坑／弥生土器、中世天目茶碗、中世～江戸陶磁器、中世～江戸瓦器、不明焼骨
願海寺城跡 (2010091)	願海寺	個人住宅建築	321.37	不明土坑／なし
小竹貝塚 (2010096) *	吳羽町字種田	看板設置	0.8	中世土師器、不明土器片
小竹貝塚 (2010096) *	吳羽町北	看板設置	1.8	不明貝殻
吳羽コウヅバラ (2010149)	吳羽町字水上	埋設物調査	212.27	遺跡なし
追分茶屋祝ノ松 (2010160)	追分茶屋字祝ノ松	個人住宅建築	373.03	縄文土器
茶屋町東 (2010177) *	茶屋町	吳羽第1処理分区茶屋町地区管渠築造工事	45	遺跡なし
吳羽富田町 (2010182)	北代字伊佐波	個人住宅建築	459.18	古代堅穴建物、古代掘立柱建物、古代ピット／古代土師器、古代須恵器
吳羽富田町 (2010182)	北代	個人住宅建築	454.42	縄文土器
吳羽富田町 (2010182)	北代	分譲住宅建築	475.76	遺跡なし
吳羽富田町 (2010182) *	北代字伊佐波	下水管布設工事	14	近現代穴／平安土師器
北代加茂下Ⅲ (2010203)	北代新字加茂下	個人住宅建築	265	縄文(中)堅穴建物／縄文(中)縄文土器
長岡杉林 (2010214) *	長岡字杉林	個人住宅建築	19.2	古代溝、不明土坑、不明溝／古代土師器
富山藩主前田家墓所(長岡御廟所) (2010220) *	八ヶ山	墓石の復旧工事	28.09	江戸大名墓墳丘／江戸越中瀬戸

遺跡名 (遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(m ²)	調査結果
八ヶ山A (2010229)	八町南	資材置場造成	19,469	古墳溝、古墳土坑、古代溝、古代土坑、古代ピット、中世溝、江戸溝／古墳土師器、古代土師器、古代須恵器、古代土錘、中世土師器、江戸陶磁器、不明鉄製品
百塚住吉 (2010232) *	山岸	正伝橋架替工事	122.7	古代須恵器、江戸陶磁器、近代陶磁器
豊田大塚・中吉原 (2010246)	豊田本町二丁目	駐車場造成	327	中世珠洲、江戸磁器
豊田(2010247)	豊田町一丁目字前田割	薬局建築	545	縄文土器、弥生土器、中世土師器
新屋殿田 (2010249)	新屋字殿田割	個人住宅建築	297.53	遺跡なし
下富居(2010250)	下富居一丁目字仕官割	社屋建築	753	不明溝／なし
下富居(2010250)	下富居一丁目字勝膳割	国道8号豊田新屋立体事業	160	遺跡なし
下富居(2010250)	下富居一丁目	個人住宅建築	354.35	遺跡なし
上富居(2010252)	上富居二丁目	宅地造成	10,081.91	古代土師器、江戸越中瀬戸
飯野小百町 (2010253)	飯野字早稻田割	国道8号豊田新屋立体事業	970	江戸陶器、近代磁器
金泉寺(2010260)	金泉寺	集合住宅建築	1,568.66	遺跡なし
水橋二杉 (2010262) *	水橋二杉	市道水橋二杉6号線改良工事	32	遺跡なし
水橋金広・中馬場 (2010286) *	水橋中馬場	市道水橋田伏3号線外1線改良工事	20	古代溝、古代土坑、不明土坑／古代土師器
中老田南IV (2010337) *	中老田	吳羽第3処理分区中老田地区下水管布設工事	22.8	遺跡なし
西金屋II (2010374)	西金屋	個人住宅建築	186.16	遺跡なし
白鳥城跡 (2010415) *	吳羽町字大谷	城山公園園路整備工事	2.88	遺跡なし
友坂(2010429)	婦中町友坂	店舗兼住宅建築	467.69	弥生土器、古代須恵器、江戸陶器、近代磁器
友坂(2010429)	婦中町友坂	個人住宅建築	447.35	古代～江戸柱穴、古代～江戸土坑、古代～江戸溝／古代須恵器、古代土師器、中世土師器、江戸越中瀬戸、江戸輪羽口、江戸鉄滓
鵜坂I(2010441)	婦中町鵜坂	建壳住宅建築	248.3	不明ピット／近代陶器、不明土師器
鵜坂I(2010441)	婦中町鵜坂	個人住宅建築	235.33	古代土師器、江戸越中瀬戸
富山城跡 (2010442) *	本丸	城址公園土橋災害復旧工事	80	近代～現代陶磁器、近代～現代瓦
富山城跡 (2010442) *	総曲輪	新規需要に伴うガス管増径工事	24	近代磁器
富山城跡 (2010442) *	総曲輪一丁目	既設上水引込管分水止・上下水引込	3.16	不明磁器片
富山城跡 (2010442) *	総曲輪一丁目	ガス取出工事	6	江戸伊万里、不明二枚貝、不明ガラス片
富山城跡 (2010442) *	本丸	破損した埋設配管の修繕にかかる掘削	5	遺跡なし
富山城跡 (2010442) *	本丸	松川高水敷護岸張直し	60	近代陶磁器、近代瓦
富山城跡 (2010442) *	本丸	城址公園災害復旧工事	2,500	江戸堀／江戸瓦、近代陶磁器、近代レンガ
富山城跡 (2010442) *	本丸	破損した埋設配管の修繕にかかる掘削	4.2	近代整地層／近代瀬戸、近代土製品、近代ガラス瓶、近代耐火レンガ、近代瓦器、近代タイル、近代スレート、近代瓦、近代代用品、近代貝

遺跡名 (遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(m ²)	調査結果
富山城跡 (2010442)	本丸	城址公園災害復旧工事 (トイレ復旧)	70	江戸堀／江戸陶磁器、江戸瓦、江戸石垣石材、近代陶磁器、近代瓦
千石町(2010444)	千石町五丁目	駐車場造成	111.1	弥生(終)溝、江戸土坑／弥生土器、中世土師器、江戸陶磁器、近代陶磁器、近代ガラス製薬瓶
千石町(2010444) *	千石町四丁目	車庫建築	15.07	明治～昭和レンガ、明治～昭和瓦
千石町(2010444)	千石町二丁目	個人住宅建築	211.44	江戸土坑、近代土坑／弥生土器、江戸伊万里、江戸越中瀬戸、江戸陶磁器、近代陶磁器、近代ガラス瓶
千石町(2010444)	千石町三丁目	個人住宅建築	207	江戸伊万里、江戸陶器
千石町(2010444)	千石町四丁目	駐車場造成	166.74	江戸溝／江戸陶磁器
千石町(2010444)	千石町四丁目	個人住宅建築	263.46	弥生溝、江戸溝／弥生土器、古代土師器、江戸越中瀬戸、江戸陶磁器、近代陶磁器
窪本町(2010446) *	窪本町	支線柱・支線新設工事	0.96	遺跡なし
窪本町(2010446)	窪本町字笛山割	集合住宅建築	970.04	江戸陶器、近代陶磁器
鍛治町(2010506)	婦中町長沢	個人住宅建築	258.64	中世溝／弥生土器、古代須恵器、古代土師器、中世土師器、中世珠洲、江戸越中瀬戸
鍛治町(2010506) *	婦中町長沢	個人住宅建築	11.2	江戸田／弥生土器、江戸磁器
小長沢Ⅱ (2010530)*	婦中町小長沢	ほ場整備暗渠排水工事	599	不明溝／縄文土器、古代土師器、江戸越中瀬戸
下邑東(2010543) *	婦中町羽根	ほ場整備区画整理工事	39,130	古代瓦、古代須恵器、古代土師器、近代磁器
下邑東(2010543)	婦中町羽根	個人住宅建築	462.8	不明木製品
下邑東(2010543)	婦中町羽根	県営ほ場整備事業羽根一期地区ほ場整備工事	39,500	弥生溝、弥生土坑、古代溝、古代土坑、古代ピット、古代自然流路、江戸溝／弥生土器、古代土師器、古代須恵器、中世珠洲、江戸陶磁器
黒崎種田 (2010550)	黒崎字塚田割	倉庫建築兼駐車場造成	1,375	古代土器廃棄場／古代須恵器、古代土師器、中世青磁、江戸磁器
黒崎種田 (2010550)	黒崎字種田割	集合住宅建築	1,056.03	古代須恵器、古代土師器、中世土師器
黒崎種田 (2010550)	黒崎字種田割	駐車場造成	1,886	中世溝、中世土坑、中世柱穴／中世土師器、中世珠洲、中世八尾、中世瀬戸美濃、江戸越中瀬戸
黒崎種田 (2010550)	黒崎字寺田割	駐車場造成	1,623	弥生土器、古代須恵器、江戸唐津、江戸瀬戸美濃
黒崎種田 (2010550)	黒崎	駐車場造成	683	遺跡なし
黒崎種田 (2010550)*	黒崎字種田割	駐車場造成	1,886	近代瓦、近代陶器、近代瓦質土器
黒崎種田 (2010550)	黒崎寺田割	倉庫建築	2,335.36	近代陶磁器
今泉城跡 (2010552)*	今泉	宅地造成	10.3	江戸越中瀬戸
上野井田 (2010557)	二俣	駐車場造成	1,273	古代溝、古代土坑／縄文土器、古代土師器、古代須恵器、古代鉄滓
山室西田 (2010559)	山室字西田割	建壳住宅建築	521.64	不明土師器
山室西田 (2010559)	山室	公園整備事業	600	遺跡なし
山室東田 (2010560)	山室字東田割	個人住宅建築	211.82	遺跡なし
山室東田 (2010560)	山室字東田割	個人住宅建築	200	古代土師器

遺跡名 (遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(m ²)	調査結果
本郷椎木 (2010561)	本郷町	個人住宅建築	295.04	中世土師器
上新保(2010564)	本郷町字万年割	個人住宅建築	272.82	古代堅穴建物、古代土坑、古代ピット、古代溝／古代須恵器、古代土師器
上新保(2010564)	上新保	個人住宅建築	198.85	古代土師器、中世土師器
上新保(2010564) *	本郷町字万年割	個人住宅建築	9	古代土師器
上新保(2010564)	上新保	分譲宅地造成	291	中世土師器
太田中田 I (2010567)	太田	農機具格納庫建築	67.64	不明流路／中世土師器
太田中田 I (2010567) *	太田	宅地造成	37	中世溝／中世土師器、江戸伊万里、江戸越中瀬戸
大宮町(2010571)	大宮町	個人住宅建築	335.15	江戸伊万里、江戸陶器、江戸土師器
新名(2010572)	新名	個人住宅建築	324.83	近代陶器
焼野陣の穴横穴 (2010594)	婦中町外輪野字八 家野	個人住宅建築	840.84	遺跡なし
富崎(2010604)	婦中町富崎	個人住宅建築	107.87	江戸伊万里、江戸唐津、江戸陶磁器、 近代レンガ
千里D(2010633)	婦中町千里	個人住宅建築	730.57	近代陶磁器
南部I(2010636)	婦中町高日附	個人住宅建築	227.78	不明ピット、不明溝／なし
道場I(2010641)	婦中町道場	倉庫建築	1,860	江戸磁器
鰐川館跡 (2010652)	鰐川	店舗建築	289.45	不明石列／なし
下熊野(2010672)	安養寺	個人住宅建築	687.08	中世土師器
下熊野(2010672) *	安養寺	佐田川改良工事	26	遺跡なし
二俣(2010674)	上野	埋設物調査	433.96	弥生土器
石田北(2010675)	石田	個人住宅建築	301.37	古代土師器
若竹町(2010684)	若竹町四丁目	個人住宅建築	205.32	弥生土器
辰尾(2010688) *	辰尾	辰尾地区排水管布設 工事	35	遺跡なし
布市北(2010692)	小杉	個人住宅建築	495.71	不明溝／不明土師質土器
布市北(2010692)	布市	個人住宅建築	631.91	古代土師器、江戸陶器
布市北(2010692)	布市	分譲宅地造成	13,678.45	弥生土器、古代須恵器、古代土師器、 中世土師器、中世珠洲、江戸越中瀬戸、 江戸陶磁器、近代陶磁器
月岡町三丁目 (2010705) *	月岡町三丁目	震災による田の陥没 復旧工事	6.25	江戸陶器
寺家・浜子 (2010743)	八尾町寺家字東定	個人住宅建築	435	中世畠、中世柱穴、中世土坑／縄文土 器、中世土師器
黒田(2010744)	八尾町黒田	農機具倉庫建築	88.39	江戸伊万里
黒田(2010744)	八尾町黒田	個人住宅建築	95.57	江戸越中瀬戸
黒田(2010744)	八尾町黒田	個人住宅建築	381.96	中世土師器、中世青磁、不明土師質土 器
井田(2010745)	八尾町井田	個人住宅建築	330.58	中世土坑／中世土師器
塙(2010767)	塙字内割	事務所建築	84	中世土師器、江戸陶磁器
東黒牧上野 (2010800)	東黒牧字上野山割	駐車場造成	1,459	遺跡なし
春日長走 (2010887)	春日	個人住宅建築	1,182.02	近代耐火レンガ、近代陶器

遺跡名 (遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(m ²)	調査結果
富山城下町遺跡 主要部(2011048) *	一番町	広告板設置	2.06	江戸越中瀬戸、江戸伊万里、近代陶磁器
富山城下町遺跡 主要部(2011048)	総曲輪二丁目	集合住宅建築	362.15	中世土師器、江戸陶磁器、江戸瓦、近代陶磁器、近代石製品
富山城下町遺跡 主要部(2011048)	平吹町	集合住宅建築	375.93	江戸旧河道／江戸越中瀬戸、江戸唐津、江戸伊万里、江戸瀬戸美濃、江戸漆器、江戸木製品、江戸瓦、近代陶磁器
富山城下町遺跡 主要部(2011048) *	平吹町	集合住宅建築	375.93	江戸井戸／江戸越中瀬戸、江戸伊万里、江戸瀬戸美濃、江戸木製品、江戸瓦、江戸唐津、江戸土製品、江戸陶磁器、近代陶磁器、近代レンガ、近代瓦、不明石
富山城下町遺跡 主要部(2011048) *	旅籠町	個人住宅建築	149.96	江戸伊万里、江戸越中瀬戸、江戸瀬戸美濃、江戸瓦、近代陶器、近代磁器、近代ガラス瓶、近代土製品、現代陶器
富山城下町遺跡 主要部(2011048)	旅籠町	店舗兼住宅建築	192.74	江戸陶磁器、近代陶磁器、近代ガラス製品
稻荷砦跡 (2011059)	館出町二丁目	個人住宅建築	322.51	不明溝／江戸陶磁器、近代陶器

令和6年度の計(4~2月)は137件(うち工事立会*43件)

(3) 令和5年度補遺(3月分)

遺跡名 (遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(m ²)	調査結果
水橋永割 (2010063)	水橋館町字永割	個人住宅建築	273.2	江戸伊万里
北代(2010207)	北代字大畑	埋設物調査	668.9	縄文土坑、古代堅穴状土坑／縄文(中)縄文土器、古代土師器、古代須恵器
富山藩主前田家墓所(長岡御廟所) (2010220)*	八ヶ山	倒壊した灯籠16基の地盤安定修復工事	4.33	江戸越中瀬戸
富山藩主前田家墓所(長岡御廟所) (2010220)*	八ヶ山	灯籠28基の地盤安定補修工事	7.9	遺跡なし
水橋金広・中馬場 (2010286)*	水橋中馬場	除雪基地建築	1	遺跡なし
センガリ山窯跡 (2010382)*	古沢	文化財案内板設置	0.38	奈良須恵器
古沢(2010383)*	古沢	用水路改修	3	縄文(中)縄文土器、縄文土器
友坂(2010429)	婦中町下条	個人住宅建築	290.39	遺跡なし
各願寺前 (2010500)*	婦中町字西屋敷	屋外広告看板設置	0.48	遺跡なし
下邑東(2010543)	婦中町羽根	県営ほ場整備事業羽根地区ほ場整備工事	6,086	古代土師器、古代須恵器、江戸磁器
今泉城跡 (2010552)	今泉	宅地造成	455	古墳(初)溝、古墳(初)土坑、中世溝／古墳(初)土師器、中世土師器、中世珠洲
上新保(2010564)	上堀南町	個人住宅建築	231.43	遺跡なし
二俣(2010674)	上野	駐車場造成	1,399	縄文土器、古代土師器
大井(2010773)*	大井	市道月岡大井線改良工事	45	中世土師器、江戸唐津

令和5年度の総計(4~3月)は137件(うち工事立会*35件)

2 遺跡地図管理

富山市内の史跡・埋蔵文化財包蔵地の総数は1,044ヶ所、総面積は約72.4k²mです（令和7年2月末現在）。これは市域1,241.70k²mの約5.8%にあたります。史跡・埋蔵文化財包蔵地は富山市遺跡地図に登載され、埋蔵文化財センター窓口のほか、インターネットでも閲覧することができます。

(1) 令和6年度の埋蔵文化財包蔵地の範囲変更等（令和6年3月～令和7年3月）

No.	遺跡名（遺跡番号）	面積（m ² ）	変更内容
1	飯野小百戸遺跡（2010034）	135,057	試掘により北側範囲縮小・一部拡大
2	今市遺跡（2010023）	3,061,391	試掘により南東側範囲一部拡大・一部縮小
3	下呂東遺跡（2010543）	387,696	試掘により北西側・北東側範囲縮小

(2) 遺跡地図のインターネット公開

遺跡地図は、富山市ホームページ「インフォマップとやま」で史跡・埋蔵文化財包蔵地の範囲や名称、所在地等の概要が閲覧できます。建築・造成工事、各種開発、不動産売買の手続き等の参考にしてください。

また、遺跡地図は調査によって遺跡範囲を随時更新していますので、その都度ご確認ください。

閲覧は「インフォマップとやま」検索→「まちづくり情報マップ」→「遺跡地図」の順に進んでください。

閲覧にあたっては利用条件をご確認ください。



スマートフォン版は
こちら

3 史跡の保護・管理

(1) 北代縄文広場

①管 理

A 管理運営委託等

a 管理運営

地元の長岡地区自治振興会に広場の管理運営を委託しました。自治振興会が配置した管理人が広場の管理等を行い、北代縄文広場ボランティアの会の会員が管理等の手伝いや、復元建物などの解説、縄文土器づくり（野焼きを含む）をはじめとした体験学習の手伝いなどを行いました。

b 環境整備

復元堅穴住居の燻し（防虫・湿気対策）、広場の草刈、樹木剪定などは公益社団法人富山市シルバー人材センターに委託しました。この他、機械除草、西広場高木の伐採・剪定や、電動薪割り機・多目的トイレ暖房便座の修繕を行いました。

B 社会に学ぶ「14歳の挑戦」

広場管理運営補助（復元建物の手入れ・体験学習の準備・粘土練り）

速星中学校（3人） 令和6年7月3日

C その他

a 「越中富山ふるさとチャレンジぐるっと富山ラリー」（越中富山ふるさとチャレンジ実行委員会事務局）に協力しました。 令和6年7月1日～11月30日

②ミニ企画展

	テーマ	期 間	主な展示品	来場者数
1	新寄贈品展 2 北代遺跡の縄文土器	令和6年7月23日 ～令和7年1月19日	北代遺跡採集 縄文土器 他	3,924人
2	青江コレクションに みる北代遺跡	令和7年1月21日 ～7月21日	北代遺跡採集 土器、石器 他	445人 (令和7年2月末現在)

③普及行事・講座

A 北代縄文考古学講座

a 令和6年8月3日 その1「縄文人と犬」

講師：近藤顕子主幹学芸員 19人参加

b 令和6年10月26日 その2「縄文時代の始まり」

講師：麻柄一志氏（魚津市教育委員会 文化財保存・市史編纂専門員） 29人参加

B 夜の堅穴建物見学と星空観察

a 令和6年8月23日

講師：近藤秀作主任学芸員（富山市科学博物館）

宮野彩学芸員（富山市科学博物館） 23人参加

④長岡地区等行事

A 長岡地区ふるさとづくり推進協議会

鯉のぼり掲揚 令和6年4月26日～5月6日

縄文冬まつり（世代間交流行事） 令和7年1月18日



鯉のぼり掲揚の様子

⑤来場者数

年度	個人	団体	合計	土器づくり 体験	縄文グッズ づくり体験	縄文コースター づくり体験
令和 4	6,071 人	461 人	6,532 人	74 人	35 人	5 人
令和 5	7,061 人	475 人	7,536 人	126 人	126 人	20 人
令和 6 (令和 7 年 2 月末現在)	6,585 人	722 人	7,307 人	181 人	121 人	17 人

(参考) 平成 11 年 4 月～令和 7 年 2 月末の来場者数累計 227,023 人

(2) 安田城跡歴史の広場

①管 理

A 管理等

a 管理

管理人 1 人が常駐し、資料館及び広場の管理や来場者への案内等を行いました。

b 環境整備

清掃業務及び広場の環境整備（芝刈・樹木剪定・除草・睡蓮間引き）は、公益社団法人富山市シルバー人材センター及び一般財団法人富山市婦中公園緑地管理公社に委託しました。

この他、資料館女子トイレ暖房便座取替修繕、資料館 2 階バルコニー出入口框扉ドアクローザ取替修繕を行いました。

B 社会に学ぶ「14 歳の挑戦」

資料館及び広場管理運営補助（広場維持管理作業・資料館館内環境整備作業）

速星中学校（3 人） 令和 6 年 7 月 4 日

C その他

「越中富山ふるさとチャレンジぐるっと富山ラリー」（越中富山ふるさとチャレンジ実行委員会事務局）に協力しました。 令和 6 年 7 月 1 日～11 月 30 日

②ミニ企画展

	テーマ	期 間	主な展示品	来場者数
1	とやまお城探検隊 Part3(富山市南東部)	令和 7 年 1 月 21 日 ～7 月 6 日	北日本新聞： とやまお城探検隊 掲載記事	786 人 (令和 7 年 2 月末現在)

③普及行事・講座

A 歴史講座

令和 6 年 11 月 9 日

第 1 部 講座「秀吉の越中出陣と関連城郭～安田城・白鳥城・大峪城～」

講師：宮田康之主任学芸員

第 2 部 安田城跡再整備工事現場見学 講師：近藤匡志氏（株式会社イビソク まちづくり事業本部整備推進課課長）、大野英子主幹学芸員 39 人参加

④地域等における史跡活用

A 富山大学教育学部授業「子どもとのふれあい体験」

令和6年7月3日、10日

場所：安田城跡歴史の広場、朝日小学校

参加者：富山大学教育学部1年生5人、
朝日小学校6年生11人、教員、
当センター職員

内容：富山大学教育学部による安田城をテーマとした授業。

朝日小学校の総合的な学習の時間にて実施。



安田城での活動の様子

B 第32回安田城月見の宴(安田城月見の宴実行委員会)

令和6年8月24日

内容：少年少女武者行列入場、YOSAKOI IN 婦中祭り、
剣詩舞、花火等



少年少女武者行列の様子

⑤来場者数

年度	個人	団体	合計
令和4	17,398人	67人	17,465人
令和5	13,385人	86人	13,471人
令和6(令和7年2月末現在)	12,530人	17人	12,547人

(参考) 平成5年5月～令和7年2月末の累計来場者数 349,667人

(3) 史跡王塚・千坊山遺跡群

①維持・管理

A 倒木処理・樹木伐採

千坊山遺跡では、倒木等の転落による事故などを未然に防止するためや、積雪のため倒れた樹木の伐採・搬出等を行いました。

B 除草管理

千坊山遺跡・六治古塚墳墓・向野塚墳墓・勅使塚古墳（市有地約59,504m²）の除草を、公益社団法人富山市シルバー人材センターへの業務委託により実施しました（5～11月）。

C 害虫駆除

千坊山遺跡の樹木にいたスズメバチを駆除し、巣を撤去しました（10月）。



婦中熊野地区左義長の様子

(4) 堀I遺跡

①婦中熊野地区等行事

A 婦中熊野地区ふるさとづくり推進協議会

令和6年度婦中熊野地区左義長 令和7年1月13日

(5) 史跡等の巡視及び管理

①文化財パトロール

富山県が委嘱した文化財保護指導委員による定期的な史跡、埋蔵文化財等の巡視。

直坂遺跡、猪谷関跡、東黒牧上野遺跡、面白寺跡、中地山城跡、安田城跡、北代遺跡、王塚・千坊山遺跡群、金草第一古窯跡、越中丸山焼陶窯跡、城生城跡、主馬ヶ城跡

②除草・環境整備

公益社団法人富山市シルバー人材センターへの業務委託により、下記の場所での除草や環境整備を実施しました。

堀I遺跡（6・8・10月）、友坂二重不整合（6・8月）、押上遺跡（6月）、栗山塚（6・8月）、古沢塚山古墳（7月）、境野新遺跡（6・8月）。

4 展示・普及

(1) 展示

発掘速報展 2024 「とやまのお墓いろいろ ー弥生時代から江戸時代ー」

- ・会場：安田城跡資料館
- ・期間：令和6年7月30日～令和7年1月19日
- ・展示遺跡：杉谷A遺跡、窪本町遺跡、水橋金広・中馬場遺跡、中富居遺跡、上野鍋田遺跡、富山藩主前田家墓所（長岡御廟所）
- ・主な展示品：
【杉谷A遺跡、窪本町遺跡、水橋金広・中馬場遺跡】
弥生土器・古式土師器
【中富居遺跡】
土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・越前・白磁・青磁・木製品・石製品・焼人骨片

【上野鍋田遺跡】

越中瀬戸（藏骨器）

【富山藩主前田家墓所（長岡御廟所）】

越中瀬戸・瓦

- ・入館者数：5,954人

- ・記念講演会 令和6年11月23日

記念講演会「杉谷4号墳をめぐる現状と展望ー北陸初の四隅突出墳発見50年を迎えてー」

講師：藤田富士夫氏（元富山市埋蔵文化財センター所長）



発掘速報展の展示状況

(2) 関係施設の企画展

①富山市考古資料館（民俗民芸村所管）

テーマ	期間	主な展示品	来館者数
企画展「打出遺跡と弥生時代の鉄器づくり」	令和6年9月28日～12月1日	打出遺跡出土遺物	1,246人

②郷土博物館

テーマ	期間	主な展示品	来館者数
企画展「富山城下町のくらし」	令和6年11月23日～令和7年2月2日	富山城跡、富山城下町遺跡主要部出土の遺物	8,475人

③富山県埋蔵文化財センターとの共催

テーマ	期間	主な展示品
令和6年度 「市町村連携発掘速報展」	令和7年2月1日～4月3日	四方背戸割遺跡、四方荒屋遺跡（令和4年度調査出土遺物）。 弥生土器・土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・白磁・石鏃・打製石・土錐

(3) 講座

①富山市民大学（富山市民学習センター主催）

地域の歴史遺産を巡る考古学

回	講師	学習題	開催日
1	納屋内高史学芸員	国史跡 直坂遺跡、県史跡 東黒牧上野遺跡 －富山市南部の旧石器～縄文時代－	5月10日
2	堀内大介主幹学芸員	国史跡 王塚・千坊山遺跡群 －婦負のクニ 杉谷四号墳など－	5月24日
3	細辻嘉門主幹学芸員	国史跡 北代遺跡 －北陸最大級の縄文中期集落遺跡－	6月14日

4	泉田侑希学芸員 (郷土博物館)	県史跡 金草第一古窯跡、市史跡 栄谷南遺跡 -古代の窯業生産と寺院・役所-	6月 28日
5	堀沢祐一所長	市指定文化財 (考古資料) 遮光器土偶 -原始・古代のいのりとまじない-	7月 12日
6	堀内大介主幹学芸員	市史跡 堀I遺跡 -中世～近世の墳墓-	9月 13日
7	宮田康之主任学芸員	市史跡 中地山城跡、城生城跡、大道城跡 -富山市南部の山城からみる戦国時代-	9月 27日
8	近藤顕子主幹学芸員	国史跡 安田城跡 -戦国時代の平城-	10月 11日
9	野垣好史専門学芸員	国史跡相当の埋蔵文化財 富山藩主前田家墓所 (長岡御廟所)	10月 25日
10	鹿島昌也主幹学芸員	市史跡 越中丸山焼陶窯跡 -近世の陶磁器生産と流通-	11月 8日

②市役所出前講座

遺跡からみた富山の歴史

回	講 師	演 題	主催者／会場	参加者数	開催日
1	堀内大介 主幹学芸員	国史跡王塚・千坊山 遺跡群と小長沢地区 の古墳	小長沢自治会いきいき サロン／小長沢公民館	20	6月 14日
2	野垣好史 専門学芸員	吳羽丘陵の端っこ、 掘ったらスゴかつた ～北代・長岡・百塚 周辺の遺跡～	吳羽山観光協会/吳羽会館	15	2月 25日

③富山大学人文学部非常勤講師

堀沢祐一所長、鹿島昌也主幹学芸員 令和6年度後期『考古学特殊講義C』「古代～近世における富山と北陸の考古学 (全15回)」 令和6年10月3日～令和7年1月23日

(4) その他

マスコミ取材対応

- A 富山テレビ「北代縄文広場の堅穴建物、火おこし体験について (『阿部叶の発見!富山』の取材)」 細辻主幹学芸員 令和6年4月18日
- B 北日本放送「北代縄文広場の堅穴建物、火おこし体験について (『週末ドコいこ?かがやきトリップ』の取材)」 細辻主幹学芸員 令和6年5月8日
- C 北日本放送「安田城跡のスイレンと堀の浚渫工事について (『KNB news every.』の取材)」 大野主幹学芸員 令和6年6月10日
- D 北國新聞「富山城・安田城について (『天から地から ほくりく城めぐり』の取材)」 野垣専門学芸員・宮田主任学芸員 令和6年6月27日
- E 北日本新聞「発掘速報展2024「とやまのお墓いろいろ」について」 鹿島主幹学芸員・堀内主幹学芸員・工藤学芸員 令和6年7月30日
- F 富山新聞「発掘速報展2024「とやまのお墓いろいろ」について」 鹿島主幹学芸員 令和6年8月9日
- G 北日本新聞「北代縄文広場開場25周年記念ミニ企画展「青江コレクションにみる北代遺跡」について」 細辻主幹学芸員 令和7年1月29日

5 刊行物

(1) 発掘調査報告書

No.116 富山市内遺跡発掘調査概要24 (2025.3)

(2) PR誌・展示図録等

『富山市の遺跡物語』No.26 富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報 (2025.3)
『北代縄文通信』第53号 (2025.3)

6 活用

(1) 出土品貸出

①展示

	貸出先	展示名	展示期間	資料名
1	富山市郷土博物館	常設展「各地の中世城館出土品 願海寺城」	R6. 4. 1 ～R7. 3. 31	願海寺城跡出土の遺物 10 点、写真 2 点
2	富山市考古資料館	令和 6 年度企画展「打出遺跡と 弥生時代の鉄器づくり」	R6. 9. 28 ～12. 1	打出遺跡出土の遺物 4 点、復元模型 1 点
3	富山市郷土博物館	企画展「富山城下町のくらし」	R6. 11. 23 ～R7. 2. 2	富山城跡、富山城下町 遺跡主要部出土の遺物 76 点

②調査研究

	貸出先	貸出期間	資料名
1	富山大学 河村愛氏	R6. 10. 29～R7. 2. 28	小竹貝塚出土齧歯目遺体 36 点

(2) 写真等資料掲載

- ①豊田大塚・中吉原遺跡出土人面墨書き土器の写真 1 点 『特集「地域の古代祭祀」』考古学ジャーナル 2024 年 10 月号の表紙に掲載
- ②富山城下町遺跡主要部出土幻の東京オリンピック記念盃の写真 2 点 袋井市歴史文化館ミニ展示「袋井・オリンピックの記憶」(令和 6 年 7 月 16 日～9 月 25 日) の展示パネルに掲載
- ③明神山遺跡出土陶磁器集合写真 1 点、富山城下町遺跡主要部出土流し掛け茶碗 13 点（越中瀬戸焼 1 点、越中丸山焼 2 点、小杉焼 4 点、萩焼 6 点）の写真掲載 東洋陶磁学会 50 周年記念事業（令和 6 年 8 月 24 日）のポスター及びポスター セッションに掲載
- ④安田城跡歴史の広場の写真 1 点 「「北陸 4 県の城」～北陸 4 県・県立図書館所蔵資料交流展示会～」(令和 6 年 11 月 29 日～令和 7 年 3 月 9 日) の展示パネルに掲載
- ⑤王塚・千坊山遺跡群の写真 1 点 「「婦負王国」卑弥呼の時代、出雲とつながり【初耳！？とやまヒストリー 古代編（3）】」『webun プラス』の電子記事（令和 7 年 2 月 10 日）に使用
- ⑥北代遺跡復元建物のジオラマの写真 1 点 『歴史人』2025 年 5 月号に掲載

(3) 資料調査・見学等

- ①令和 6 年 8 月 5 日 東京大学埋蔵文化財調査室 追川吉生氏
富山城跡、富山城下町遺跡主要部出土陶磁器
- ②令和 6 年 7 月 19 日 明治大学研究・知財推進戦略機構 中沢道彦氏 吉岡遺跡出土土器
- ③令和 6 年 9 月 30 日 富山県教育委員会 松井広信氏
新庄城跡、小出城跡、安田城跡、白鳥城跡出土土師器皿
- ④令和 6 年 10 月 2 日 小松市教育委員会 横幕真氏
北代遺跡、鏡坂 I 遺跡、開ヶ丘狐谷 III 遺跡出土土器・土製品
- ⑤令和 6 年 10 月 8 日 富山大学 河村愛氏ほか 1 名 小竹貝塚出土齧歯目遺体

7 調査研究

(1) 調査協力・共同研究

①石川県金沢城調査研究所

令和 6 年 10 月 22 日 令和 6 年度第 1 回金沢城関連城郭等情報連絡会 「金沢城跡二ノ丸御殿・二ノ丸御居間先の確認調査、石垣復旧」の現場見学 野垣好史専門学芸員
令和 7 年 2 月 4 日 令和 6 年度第 2 回金沢城関連城郭等情報連絡会 参加各機関の近況報告会
野垣好史専門学芸員

②公益財団法人石川県埋蔵文化財センター

令和 7 年 2 月 13 日～14 日 令和 5・6 年度環日本海文化交流史調査研究事業『高地性集落－日本海沿岸地域を中心として－』令和 6 年度研究集会 細辻嘉門主幹学芸員

(2) 論文・報告・紹介 富山市内の遺跡に関するものを含む

①関係職員等

- 小黒智久・後藤浩之 2025.3「令和6年能登半島地震による被災鉄器の再保存処理－杉谷A遺跡・番神山横穴墓群・打出遺跡出土鉄器－」『富山市考古資料館紀要』第44号
- 鹿島昌也 2024.7「富山県地方史研究の動向」『信濃』第76号7巻 信濃史学会
- 鹿島昌也 2024.12「回顧 考古学」『北日本新聞 令和6年12月23日付朝刊』北日本新聞社
- 鹿島昌也・泉田侑希 2025.3「北陸における近代煉瓦研究事始」『学究無限－吉岡康暢先生卒寿記念論文集』 石川考古学研究会
- 鹿島昌也・納屋内高史・仲あずみ 2025.3「令和6年能登半島地震における富山藩主前田家墓所（長岡御廟所）この1年について」『富山市の遺跡物語』No.26 富山市埋蔵文化財センター
- 泉田侑希 2024.9「四隅突出型墳丘墓の調査事例報告－富山県を中心に－」『海を越えての交流－杉谷四号墳の調査から半世紀を経て－』森浩一先生に学ぶ講演会資料集 富山文化研究会
- 高木好美 2025.3「令和6年能登半島地震による展示品の破損について」『富山市考古資料館紀要』第44号
- 野垣好史・小黒智久 2025.3「杉谷A遺跡出土鉄器の歴史的意義と方形周溝墓の築造動向」『富山市の遺跡物語』No.26 富山市埋蔵文化財センター
- 細辻嘉門 2025.2「富山県の弥生時代比高差のある集落と環濠のある集落について」『高地性集落～日本海沿岸地域を中心として～発表要旨・資料集』（公財）石川県埋蔵文化財センター
- 堀沢祐一 2024.8「近世富山城下町の人々の暮らし－近年の発掘調査成果から まじないを中心として－」『とやま民俗』No.102 富山民俗の会
- 堀沢祐一 2024.10「越中国の古代祭祀」『考古学ジャーナル』No.801 ニューサイエンス社
- 堀沢祐一 2025.3「古代北陸道の人面墨書き土器について」『富山市の遺跡物語』No.26 富山市埋蔵文化財センター

②市内遺跡を取り扱ったもの

- 池野正男 2024.3「「古代型甌」の展開－上置き方式のロクロ成形甌を中心に－」『大境』第43号 富山考古学会
- 上野 章 2024.3「筆立硯・邪視文硯について」『大境』第43号 富山考古学会
- 金谷奉賢 2024.6「企画展「見て、知って！とやまヒストリー2024」 とておき埋文講座①」『埋文とやま』VOL.167
- 金三津道子 2024.3「国営農地整備事業の試掘調査」 とておき埋文講座①」『埋文とやま』VOL.166
- 坂本豊治 2024.9「山陰地域の四隅突出墓の調査と研究」『海を越えての交流－杉谷四号墳の調査から半世紀を経て－』森浩一先生に学ぶ講演会資料集 富山文化研究会
- 高橋浩二 2024.9「杉谷4号墳の築造背景と富山平野におけるクニづくり」『海を越えての交流－杉谷四号墳の調査から半世紀を経て－』森浩一先生に学ぶ講演会資料集 富山文化研究会
- 高橋浩二・金子綜一郎・川島壯平・北島圭悟・黒岩美晴・清水智裕・高垣和弘・山下佳純 2024.3「富山大学考古学研究室収蔵の番神山横穴墓群出土須恵器及び鉄製品」『大境』第43号 富山考古学会
- 藤田富士夫 2024.9「杉谷4号墳と日本海文化シンポジウム」『海を越えての交流－杉谷四号墳の調査から半世紀を経て－』森浩一先生に学ぶ講演会資料集 富山文化研究会。
- 松井広信 2024.9「縄文時代の魚の大きさを知りタイ！」 とておき埋文講座①」『埋文とやま』VOL.168
- 町田賢一 2024.3「“の字浅鉢”－上市町砂林北遺跡出土縄文土器から－」『大境』第43号 富山考古学会
- 宮代栄一 2025.3「北陸地方出土馬具の研究（下）－福井県（嶺南）出土例を中心に－」『富山市考古資料館紀要』第44号

③報告書など

- (公財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査課 2024.3『下邑遺跡 小長沢II遺跡 小長沢鎌蓋遺跡発掘調査報告』
- (公財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査課 2024.3『浜黒崎野畑遺跡 浜黒崎悪地遺跡発掘調査報告』
- (公財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査課 2024.3『水橋荒町・辻ヶ堂遺跡発掘調査報告』
- (公財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査課 2024.9『水橋田伏遺跡発掘調査報告』
- (公財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査課 2024.9『宮条南遺跡発掘調査報告』

富山県埋蔵文化財センター 2023.3「4 任海宮田ほか遺跡群出土品」『とやまの古代集落遺跡出土品』

富山県埋蔵文化財センター 2023.3『県営農地整備事業水橋下条北部地区国営農地整備事業下条工区埋蔵文化財試掘調査報告 水橋開発町遺跡・水橋狐塚遺跡・水橋恋塚遺跡・水橋小池遺跡』

富山県埋蔵文化財センター 2024.3『国営農地整備事業下条工区埋蔵文化財試掘調査報告 小出城跡・水橋小出遺跡・水橋専光寺遺跡』

富山県埋蔵文化財センター 2024.3「小竹貝塚出土品」『埋文とやま』VOL. 166

(3) 講演・研究発表 富山市内の遺跡に関するものを含む

鈴木景二「地域史再興 出雲と高志」

泉田侑希「四隅突出型墳丘墓の調査事例報告－富山県を中心に－」

高橋浩二「杉谷4号墳の築造背景と富山平野におけるクニづくり」

藤田富士夫「森浩一先生による日本海文化シンポジウムとその構想」

森浩一先生に学ぶ講演会 令和6年9月22日

近藤顯子「縄文人と犬」北代縄文考古楽講座その1 令和6年8月3日

藤田富士夫「杉谷4号墳をめぐる現状と展望－北陸初の四隅突出墳発見50年を迎えて－」

発掘速報展記念講演会 令和6年11月23日

細辻嘉門「富山県の弥生時代比高差のある集落と環濠のある集落について」令和5・6年度環日本海文化交流史調査研究事業 令和6年度研究集会 令和7年2月14日

麻柄一志「縄文時代の始まり」北代縄文考古楽講座その2 令和6年10月26日

宮田康之「秀吉の越中出陣と関連城郭～安田城・白鳥城・大峪城～」安田城跡歴史講座 令和6年11月9日

宮田康之「安田城～発掘調査の成果と時代背景～」令和6年度南砺市民大学「緑の里講座」 令和7年2月19日

8 研修等参加

(1) 令和6年度文化財担当者専門研修「文化財石垣保存整備（講義）過程」（オンライン）

野垣専門学芸員 令和6年6月12日～14日

(2) 令和6年度全史協北信越地区協議会役員会（福井県坂井市）

宮田主任学芸員 令和6年7月11日～12日

(3) 令和6年度文化財担当者専門研修「遺跡調査技術過程」（奈良県奈良市）

工藤学芸員 令和6年9月30日～10月4日

(4) 令和6年度全国史跡整備市町村協議会臨時大会（東京都千代田区）

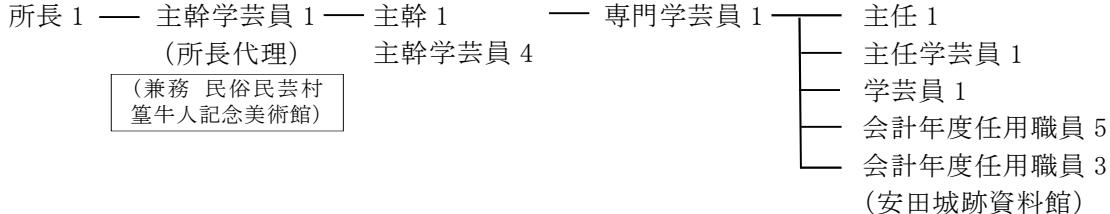
谷村主幹 令和6年11月15日

(5) 令和6年度埋蔵文化財発掘調査専門職員等研修会（富山県埋蔵文化財センター）

鹿島主幹学芸員・宮田主任学芸員・工藤学芸員 令和7年2月21日

9 組織・事業費

(1) 組織（令和6年4月）



(2) 事業費（令和6年度当初）

①埋蔵文化財調査事業費 (内訳) 埋蔵文化財調査費 施設管理事務費	38,393 千円 15,963 千円 22,200 千円	普及事業費	230 千円
②文化財保護事業費 (内訳) 文化財保護事業費 一般管理事務費	87,328 千円 69,994 千円 96,934 千円	施設管理事務費	17,334 千円

はじめに

筆者は、これまでに越中国での人面墨書土器(以下、人面土器)の特徴等や、古代の諸国における人面土器の出土状況の確認などを行ってきた⁽¹⁾。2018年に諸国の様相を調査した際には、古代北陸道での出土事例が増加する傾向がみられた。改めてこの地域での人面土器を集成し、様相や特徴等について、越中国の様相を踏まえながら触れてみたい。本稿は、古代北陸道のうち西から越前国、加賀国、能登国、越中国、越後国を対象とする。ちなみに若狭国と佐渡国では現在のところ人面土器の出土事例は報告されていない。

1 越前国の様相

越前国では、現在のところ高柳遺跡のみから人面土器が2~3点出土している。

(1) 高柳遺跡(福井市高柳1丁目)

人面土器は自然流路(SR02)から2点(9世紀頃)出土している。福井県域では初めての出土事例である。SR02は最大幅約40m、深さ約1.4mで、弥生時代後期末以降に形成され9世紀頃まで機能していたと考えられている。人面土器は土師器小型甕を使用しており、平底(図1の1)と丸底(図1の2)が各1点ある。前者は4面の顔が描かれ、色調は赤味がかかる。後者は残存している部分で2面の顔が確認できる。色調は肌色から白色に近い。両者の顔の書き手は違うように思える。また、舌や歯を描いており特徴的である。

SR02の主な出土遺物としては、墨書土器(「中家」「口家か」「大伴」「大万呂」「倉女」「口長か」「加津」「綾生」「半」「本」「吉」「黒」「十」「田」「永か」等)、製塩土器などがあり、墨書土器は31点報告されている。

また、図1の3の土師器の小型甕は、顔が描かれないと丸底器形で、色調が人面土器に使用されている土器と似ている。筆者が私考する顔が描かれないと人面土器なのであろうか。これを含めると3点になる。

なお、木製品も出土しており、時期比定が難しいようであるが、箸と報告されている木製品があり、古代であれば斎串の可能性がある。なお、曲物の底板や皿、弓、炭化した材もあり、越中国などで木製形代とともに出土する主な木製品と一致する⁽²⁾。このことは加賀国や越後国でも同様の傾向がみられる。

本遺跡については、「加津」の墨書土器などから「古代北陸道に関する遺跡で九頭竜川を渡るための渡渉点に関する施設があったもの」と推定されている。

2 加賀国の様相

加賀国では5遺跡から13点(人面土器の可能がある土器と顔のない人面土器5点を含む)が出土する⁽³⁾。

(1) 松梨遺跡(小松市松梨町)

自然河道(幅約17m以上、深さ約1m)から人面土器片が5点出土しており、内4点(図1の4~7)が同一個体とされ、2点以上が確認できる。使用される土器の時期は9世紀前葉で、すべて土師器小型甕である。

人面土器以外には、緑釉陶器、墨書土器63点(「仁古磨」「牧万呂」「縄万呂」「磨」「口」「井」「上内」「鬼食」「富三」「口子」「中田」「平益」「長一」「酒」と「口」「三」「十」「升か」「升か」「品」「拍か」「東」「山」「珍か」「食」「中」「内」)、転用硯、灯明具や木製品(琴柱状木製品、曲物、折敷、弓、火鑓棒等)などが出土している。

本遺跡について報告書では「8~9世紀の建物群は不分明ながら豊富な文字資料や庄園の存在の可能性などから松梨はたんなる川筋の通過点ではなく有力な中継地であったことになろうか」と評価している。

(2) 福増カワラケダ遺跡(金沢市福増町南)

川跡(SD10・幅約6~10m)から人面土器である1点(図1の9と10)と人面土器の可能性が指摘されているものが1点(図1の11)、不明墨書模様が描かれる1点(図1の12)がある。また、図1の13は焼成後に底部穿孔されており、顔がない人面土器と考えられる。すべて土師器小型甕で、時期は9世紀前半頃。

SD10からは、墨書土器(「二」「百力」「汝」「田」「小」「東」)、灯明具の他、木製形代として斎串、人形(約60点)、馬形、鳥形か、剣形か、櫛形かが出土し、その他には櫛と考えられる製品に加え、曲物、折敷、焦げた板棒、下駄の歯などがある。報文では、木製形代等と人面土器等の土器祭祀具の出土傾向が異なること

から「木製祭祀具と土器を用いた祭祀行為は直接的には連携しない可能性が高い」と指摘され、本遺跡について「隣接する横江莊遺跡に所在する莊家推定建物に関わる祭祀場(祓所)の可能性がある」としている。

(3) 大友 E 遺跡(金沢市近岡町)

人面土器は2カ所の川跡(市SD02は2点・県SD01は1点)から計3点が出土している。1カ所目は、市SD02で、幅14.2m、深さ1.6mの規模である。人面土器は土師器小型甕(図1の14)と長胴甕(図1の15)を使用し、ともに顔は3面が描かれるようで、書き手は同一と考えられる。時期は9世紀後半が中心。

市SD02からは、緑釉陶器、墨書土器(「秋」「秋木」「大」「門口」「千」「木」「斗」「伝か」「西」「庄」「大口」「口庄口」「田」「火」「真」「依」「訖か」「南請か」)、転用硯、灯明具、木製品などが出土している。木製品の中には、斎串(4点)、人形(1点)、陽物形?(1点)の形代や、曲物、火鑽臼、箸状木製品などが含まれている。

また、市SD02南方約40m離れた調査区では、本溝との関係が指摘されている2条の溝(市SD122、市SD130)が検出されている。前者からは呪符木簡、斎串(1点)、人形(1点)、木皿、折敷、箸などが、後者では人形(2点)、觶、斎串と考えられる棒状木製品などが出土している。時期は9世紀後半である。

もう1カ所の人面土器の出土地点は、これらの溝から南西方向約150m離れた県SD01(幅約6m、深さ1.1m)で、土師器の小型甕片(図1の16、8~9世紀)がある。この溝からは墨書土器(「依女」「井」と木製品として曲物が出土している。本溝の北東方向に位置する川跡からは斎串が1点あり、その他には曲物、付木、火鑽臼、下駄などが出土し、墨書土器(「依」「大」など)、転用硯?もある。時期は8世紀後半とされる。

なお、市SD02の南方約190mに位置する河川跡(市SD3002・幅約12m、深さ約1.7m)から、木製形代として斎串、人形、馬形、鳥形、刀形が確認されており、この他には觶、曲物、皿、糸巻、弓、下駄、棒状木製品などがある。あわせて1000点を超える墨書土器(「井」「依」「稻依」「大」「案主」「田舎」「馬屋」等)や、転用硯、灯明具、馬歯、獸骨などが出土している。時期は8世紀中葉から10世紀前葉である。人面土器を使用しない祭祀行為が行われていた可能性があり、幾つかの祭祀場を形成していたと考えられる。

本遺跡の性格として、遺跡周辺を含めた比較的広範囲な土地を対象に定期的な(頻繁な)祭祀行為を行っていた農耕・生産に関する公的な管理施設や莊園施設と想定されている。

(4) 若松遺跡(金沢市田上町北)

長軸約40cm、短軸約30cmのピット(P-F149)から土師器長胴甕(図1の17・8世紀後葉~9世紀前葉頃)を使用した人面土器がある。出土状況について「掘立柱建物近くのピットから出土した若松遺跡の事例は、竪穴建物内から出土するという東国に近いものと考えられ、北陸では珍しい用いられ方をしている」と指摘されている。古代北陸道では越中国の下佐野遺跡でピットから出土している事例(図2の10)がある。本遺跡の周辺には、古代前半~中頃に寺院関連の施設または寺院を支える有力氏族の存在が想定されている。

(5) 加茂遺跡(津幡町字舟橋・加茂地内)

土師器小型甕を用いた人面土器(図1の18・9世紀中葉)が溝(SD10)から1点出土している。底部が見られないため意図的な穿孔と推定されおり、土器には2面に顔などが描かれている。A面には「非常に柔軟な表情で笑みを称えた子供のように見える」と報告されている。B面は男性器の可能性が指摘されている。図1の19は、人面土器の近くから出土した土師器小型甕で底部が欠損するが、ほぼ完形で、人面土器とほぼ同形同サイズであることから、人面土器との関連性が指摘されている。墨書が認められないとすれば、筆者の言う「顔がない人面土器」と考えられる。なお、この調査区では木製形代は出土していないが、SD10とつながると想定されるSD5001から斎串1点と刀形1点出土している。

SD10は、南東から北西方向に敷設された古代北陸道能登路を分断する東西溝で、推定幅14m、深さ約85cm前後である。また、SD10の南肩部付近では3本の杭列(間隔94cm)が確認され、渡河に係る施設と考えられている。「道と流路と交わるこの地で何らかの祭祀が行われた可能性が高い」と報告されている。

本遺跡では、人面土器が出土している溝以外に、約8カ所から木製形代が出土している。総点数は斎串21点、人形4点、刀形3点、剣形1点、鎌形1点であるが、各地点から出土している点数は数点である。

井戸や掘立柱建物の柱穴から斎串が1~2点出土している事例があるが、溝からの出土が多く、SD10の北西方向約240mに位置する北大溝(9世紀代)では人形(1点)、斎串(7点)とともに土師器小型甕(図1の20)が出土しており、「顔のない人面土器」と考えられる。また、墨書土器や挽物の盤などもある。

また、仏堂と推定される礎石建物も確認されており、仏教信仰と道教的信仰が重層していることがわかっている。本遺跡の性格については、田領が駐在する郡役所の関連施設と考えられている。

3 能登国の様相

能登国では3遺跡から6点(人面土器の可能がある土器を2点含む)出土している。

(1) 森本C遺跡(宝達志水町森本)

人面土器(図1の21・8世紀末~10世紀前葉)は河道跡(SD01)から1点出土している。使用する土器は土師器鉢で、いわゆる土製の仏鉢で、あまり人面土器に使用される器種ではない。また、顔は倒置に描かれ、底部に「中山寺」の墨書がある。このような墨書方法は珍しく、使用方法が気にかかる。

SD01は、幅3.2~5.4m、深さ50cm前後である。SD01からは、確実に形代と考えられる木製品はなく、斎串と推定される箸状、棒状木製品が実測図は各1点(箸状木製品は11点と報告されている)あり、呪符木簡も1点見られる。この他には墨書土器36点が報告されており、その内容は「中山寺」「北寺」「田所家」「川相」「中山」「柿」「□正か」「田上」「前」「西か」である。転用硯、灯明具も出土し、仏鉢も多い。

本遺跡は、奈良時代末~平安時代前期にかけて、諸儀式を執り行ったと考えられる「中山寺」「北寺」、あるいは「田所家」に関わる公的施設が存在したことが想定されている。仏教信仰と道教的信仰の接点の中で人面土器が使用されているのであろうか。

(2) 福井ナカミチ遺跡(志賀町福井・福野)

自然流路(SX311・313)から、人面土器が1点と、人面土器と想定される土器が2点ある。3点とも須恵器の杯で、9世紀中~後葉である。加賀、能登両国では唯一の事例である。図1の22は1面顔が描かれている。図1の23は2面墨書が認められ「筆跡は文字というよりは絵画に近く、図1の22と同様に人面が描かれた可能性が高い」とされ、図1の24は「墨書は筆跡から人面墨書の可能性を残す」と報告されている。

SX311・313は、幅5~8.5m、検出面からの深さ45~80cmで、溝状を呈している。木製形代は琴柱状木製品が1点、斎串と考えられるものが1点あり、その他には曲物などが報告されている。また、墨書土器(「公主」「田口」「主か」)17点が示されており、転用硯、灯明具、製塩土器などもある。

本遺跡は、「旧福野潟に面した寺院が関与し、祭祀を行った施設の一部」と考察されている。

(3) 小島西遺跡(七尾市小島町)

人面土器はD区の下層3層から2点が出土している。すべて土師器を使用している。図1の25は、4面の顔が描かれる。AとB面、CとD面は互いに表情が似ており、両目から頬にかけての墨書による線が特徴的とされている。時期は9世紀前葉である。図2の1と2は人面土器片で同一個体として報告されている。おそらく土師器の長胴甕で、時期は9世紀前半~9世紀第3四半期である。

この地区は木製形代が大量に出土している地区で、斎串566点、人形164点、舟形7点、馬形46点、刀形15点、弓形9点、琴柱形1点、鋤形1点、斧形1点が報告されている。この他に斎串と想定されている芯持ち丸太材で直線性を保つものがあり118点に及ぶ。周辺の調査地区を含めると約1000点にもなる。また、墨書土器、転用硯、製塩土器、付札状、曲物、盤、糸巻、櫛、鹿笛などの木製品、獸骨等がある。

7世紀末~8世紀初頭から祭祀具の使用が開始されたと指摘されており、8世紀後半~9世紀初頭には木製形代を用いた祭祀が行われ、9世紀前半~9世紀第3四半期には人面土器も使用されている。ただし、出土点数の割合から見て、木製形代を主体とする祭祀行為が行われていたと考えられる。

本遺跡については、「祭祀は古代から中世初頭まで、断続的ながら長期にわたって執り行われている。祭祀の規模と継続性から判断して、能登国府あるいは香島津に付随する祭祀場であった」と推定されている。

4 越中国の様相

越中国では8遺跡から28点以上が出土している(顔のない人面土器は8点あり、それを含めると36点以上になり、遺跡数は9遺跡になる。)。越中国の人面土器は図2の3~図3の6、12・13に示している。出土点数は北陸道内ではもとより、日本海沿岸諸国でも最多である。越中国については紙幅の関係があるため、堀沢2013、堀沢2024を参照していただきたい。

5 越後国の様相

越後国では3遺跡から4点が出土している。

(1) 浦反甫東遺跡(長岡市島崎)

人面土器片(図3の7)は河川(SD976)から1点出土している。使用する土器は土師器の長胴甕で、時期は9世紀後半～末である。SD976は幅30.1m、深さ1.86mである。SD976は新旧関係があり、そのほとんどが中近世主体の河川で、左岸側に最大幅で約9.8mの古代の河川が確認されている。SD976からは、墨書土器(59点が報告。「仲成」「田庄」「仲」「足」「天」「入」「大」「奉」「氷」「床」「袴」「山」「方」「本」「前」「田」「有」「太」「木口」と「×」「五」と「五」「七」「七」と「七」と「口」「×」など)、転用硯、灯明具、木製品、銅製の巡方などが出土している。木製形代は斎串が3点あり、その他は曲物、挽物の盤、箸、棒状木製品、木簡などがある。

本遺跡については、「9世紀前半が周辺地域の中心的な集落、中葉が物資の拠点的施設、後半～末が莊園関連施設で、いずれも在地豪族層の関与を示唆している」と指摘されている。

(2) 緒立C遺跡(新潟市(旧黒崎町)西区緒立流通)

土師器の甕を使用する人面土器が2点出土している。出土地点は低地部の木製品集中部近くで、長胴甕(図3の8、9世紀第2四半期～第3四半期)と小型甕(図3の9)がある。図3の9は、人面かどうか不確定であるが、鬚を描いていると推定されている。また、人面土器付近では斎串約50点とあわせて、人形と考えられる木製品や、木鏃(鏃形か)の形代がある。この他の木製品としては、編木簾の可能性がある付札、曲物、折敷、火鑽臼、火鑽棒、斎串と考えられるような棒や箸も出土している。「岡本」「廣」「入」等の墨書土器もある。なお、土坑(SK529)から骨角製のサイコロ、グリットから帶金具(巡方)が出土している。

本遺跡については北東約700mに位置している的場遺跡(新潟市西区的場流通)との関係が指摘されている。的場遺跡は8世紀前半～10世紀に存続し、本遺跡よりやや先行して官が関与した漁業・物資管理の拠点と評価されている。この的場遺跡をさらに強い支配下に置くために設置されたのが本遺跡であると指摘されている。「緒立遺跡が役所本部で、的場遺跡が役所出先機関兼現場」と報告されている。

(3) 胎内市船戸桜田遺跡(胎内市(旧中条町)船戸)

人面土器は川跡から1点が出土している。土師器の小型甕(図3の10)で、時期は8世紀末～9世紀前葉とされる。顔は2面あり、A面の目の下は揉上もしくは頬髭と考えられている。

川跡は蛇行しており、いくつもの調査区をまたいで確認され、幅は5mから14m以上の規模で、深さは1.3～1.9mになる。この川跡からは、墨書土器(「村」「下」「上」「木」「王」)、転用硯、木製品などが出土している。木製品の中には斎串(7点)、舟形(1点)、馬形(1点)の形代の他に、盤や曲物、付木、檜扇、下駄、棒状・箸状木製品などが確認されている。人面土器と斎串2点が同時期である。

本遺跡の周辺に所在する蔵ノ坪遺跡(東方約400m)、船戸川崎遺跡(西方約1.5km)、中倉遺跡(北西方向約3.2km)との関連性が指摘されている。船戸川崎遺跡では斎串(29点)、人形(4点)、馬形(3点)が確認され、中倉遺跡でも斎串(5点)、馬形(1点)があり、いくつかの祭祀場が存在していた可能性がある。

蔵ノ坪遺跡の報告書では「蔵ノ坪遺跡は当初(8世紀後葉～9世紀初頭)「律令的生産構造」の一村落である。この段階では郡司層レベルで推進されていたであろう。II期(9世紀後葉)段階では国衙支配が強まり、立地的に陸と水系の結節地にある蔵ノ坪遺跡、船戸桜田遺跡、船戸川崎遺跡が周辺の物資集積に関わる津施設としての役割を担っていた」と記載されており、本遺跡の性格について触れている。

6 まとめ

このように、北陸道(越前国、加賀国、能登国、越中国、越後国)において、人面土器は21遺跡から62点が確認できる。時期については、越中国の埴生南遺跡(図3の3)が7世紀末～8世紀前半とされ、8世紀末から9世紀初頭にかけて増加し、9世紀代が多い。その後、9世紀末まで確認できる。出土遺構は、溝や川跡、自然流路、低地部、道路側溝など水と関わりが強く、主に祓の行為で使用された痕跡と考えられる。

また、越中国では幅2～7m程度の溝などを使用している場合が多かったが、周辺諸国では、幅10mを超えるような大規模な川跡等で祭祀を行っている傾向があるようだ。また、加賀国の若松遺跡(図1の17)からは掘立柱建物近くのピットから出土する事例があり、建物の祭祀に関わるかもしれない。

使用する土器は、土師器の小型甕、長胴甕、鍋、鉢などや須恵器の杯を使用している。このうち、土師器小型甕が最も多く、全体の72.6%を占める。口径は13cm台が最多で、最小は8cm台、最大は19cm台になる。次に多い土師器長胴甕で14.5%、越前国以外で出土しており、地域で使用される土器の特徴でもある。9世紀後半に多く使用される傾向がある。須恵器杯は6.5%に過ぎない。土師器の小型甕を使用するのは都城の祭祀専用土器の影響によると考えられる。その他の特徴的な土器としては、能登国の森本C遺跡の土師器鉢(図1の21)を使用した土器である。顔は倒置に描かれ、底部には「中山寺」の墨書がある。また、越中国の南太閤山I遺跡では、都城の壺Bを模倣した土器(図3の3)が出土し、これには顔がない。

ちなみに、以前筆者が越中国などで確認できると考えている「顔のない人面土器」が、越前国や加賀国でも出土しているようである(図1の3、13、19、20、図2の27、32~34、36、図3の3、12、13)。北陸道では数少ないながら人面土器の出土事例が増えており、祭祀の主体者などが人面土器に使用する器について理解していることを物語っているのかもしれない。

使用する土器の組み合わせは、ほぼ同サイズで同スタイルの土師器の小型甕もしくは長胴甕、須恵器杯を用いる場合や、土師器小型甕と長胴甕、土師器小型甕と須恵器杯のように大小の土器をセットで使用するケースが考えられる。これに木製形代が伴う場合が多い。また、越中国では木製形代以外に轍、発火具、容器、服飾具、紡織具などが出土することがあり、同様のことが周辺諸国でも確認できる。共通性があるようだ。さらに、文字墨書土器が出土する場合がほとんどで、人面土器との関係については課題である。

描かれる顔の数は、1面が4点、2面が10点、3面が8点、4面が7点と、2面の土器が多い。顔の構成要素は、顔の輪郭、頭髪、眉毛、目、目玉、まつ毛、眉間、鼻、鼻穴、人中、口、舌、歯、耳、口髭、顎髭、頬髭、鬚もしくは鳥帽子などがある。顔全体の様子がわかる顔を分析すると、眉毛、目、目玉、鼻、口を描く場合がほとんどで、都城の人面土器の主要パートと一致する⁽⁴⁾。次に鬚や耳、顔の輪郭を描くことが見られる。特に鬚は都城では主要パートとされていないが、北陸道諸国においては、口、顎、頬髭のどこかの部分を描く割合が高く、鬚は地域において、顔を構成する主要な部分と考えられる。

祭祀の背景については、公的施設などの存在が考えられる。筆者は、越中国では主に国府や郡家が関わっていると考えている。周辺諸国においては、能登国府や郡役所の関係が想定され同様の場合もあるが、津、荘園、寺院、あるいは交通路などを背景にした事例もあり、幅広い祭祀の主体者が想定される。

今回は、北陸道の人面土器に触れたが、もう一つの代表的な祭祀道具として人形などの木製形代がある。今後は、本稿で取り上げた人面土器の様相等を踏まえ、木製形代との関係について検討していきたい。

注

- (1) 堀沢祐一 2013 「古代越中国の人面墨書き土器について」『高岡市万葉歴史館紀要第23号』1-13頁
堀沢祐一 2018 「諸国での人面墨書き土器出土状況について」『富山市の遺跡物語No.19』38-44頁
- (2) 堀沢祐一 2024 「越中国の古代祭祀」『月刊考古ジャーナルNo.801』10-15頁
- (3) 令和5年9月16日~12月10日に金沢市埋蔵文化財センターで開催されていた企画展「加賀の古代津港」に、金沢市南新保C遺跡から出土した人面土器(平安時代・土師器小型甕)が展示されていた。これを含めると加賀国では6遺跡から14点が確認できる。確実に人面土器とされる土器は9点になる。
- (4) 上村和直 1994 「都城出土人面土器に関する二、三の問題」『文化財学論集』723-734頁

主な文献

- 石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター 2008 『七尾市小島西遺跡』
石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター 2009 『加賀町加賀発跡I』
石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター 2008 『立石志木森本C遺跡』
石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター 2016 『金沢市大友A遺跡 大友E遺跡 直江西遺跡 直江北遺跡』
石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター 2017 『羽咋郡志賀町福井ナカミチ遺跡』
石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター 2018 『加賀町加賀発跡 加賀発跡II』
石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター 2021 『津幡町加賀発跡II』
石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター 2023 『津幡町加賀発跡V』
石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター 2023 『小松市松葉遺跡』
大島町教育委員会 1995 『富山県大島町北高木遺跡発掘調査報告書』
小矢部市教育委員会 1993 『平成4年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報』
金沢市・金沢市埋蔵文化財センター 2006 『石川県金沢市福曾カワラケダ遺跡II』
金沢市・金沢市埋蔵文化財センター 2004 『石川県金沢市若松遺跡』
金沢市・金沢市埋蔵文化財センター 2009 『石川県金沢市田上南遺跡II』
金沢市・金沢市埋蔵文化財センター 2016 『石川県金沢市大友E遺跡』
金沢市・金沢市埋蔵文化財センター 2021 『石川県金沢市大友E遺跡』
黒崎町教育委員会 1994 『緑立C遺跡発掘調査報告書』
- (公財)富山県文化振興・市民埋蔵文化財調査事務所 2015 『出来田南遺跡発掘調査報告』
(財)富山県文化振興・市民埋蔵文化財調査事務所 2012 『水上遺跡 赤井南遺跡 安吉遺跡 棚田遺跡 本江大坪I遺跡』 高岡市教育委員会 2012 『石名瀬A遺跡調査報告』
津幡町教育委員会 2007 『加茂・加賀発跡遺跡I~第1~12調査区の詳細分布調査概要』
津幡町教育委員会 2009 『加茂・加賀発跡遺跡II~第1~14調査区の詳細分布調査報告書』
津幡町教育委員会 2012 『加茂遺跡II~第1~21調査区の発掘調査報告書』
富山県教育委員会 1985 『七美・大間山・高岡線内轍跡発掘調査報告概要(3)南太閤山I遺跡』
富山県埋蔵文化財センター 2011 『富山県高岡市下佐野遺跡発掘調査報告書』
富山県埋蔵文化財センター 2014 『北高木遺跡出土品集』
富山県教育委員会 1998 『富山市豊田大坂遺跡発掘調査概要』
中条町教育委員会 1999 『新潟県北蒲原郡中条町中倉遺跡3次』
中条町教育委員会 2001 『新潟県北蒲原郡中条町舟戸松田遺跡2次』
中条町教育委員会 2005 『新潟県北蒲原郡中条町舟戸松田遺跡4・5次 船戸川崎遺跡6次』
中条町教育委員会 2002 『新潟県北蒲原郡中条町船戸川崎遺跡4次』
新潟県教育委員会 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団 2002 『蔵ノ坪遺跡』
新潟県長岡市教育委員会 2016 『浦反東遺跡』
福井県教育厅埋蔵文化財センター 2021 『高柳遺跡2』
堀沢祐一 2008 『富山市花ノ木C遺跡の祭祀具について』『富山市考古資料館報No.45』

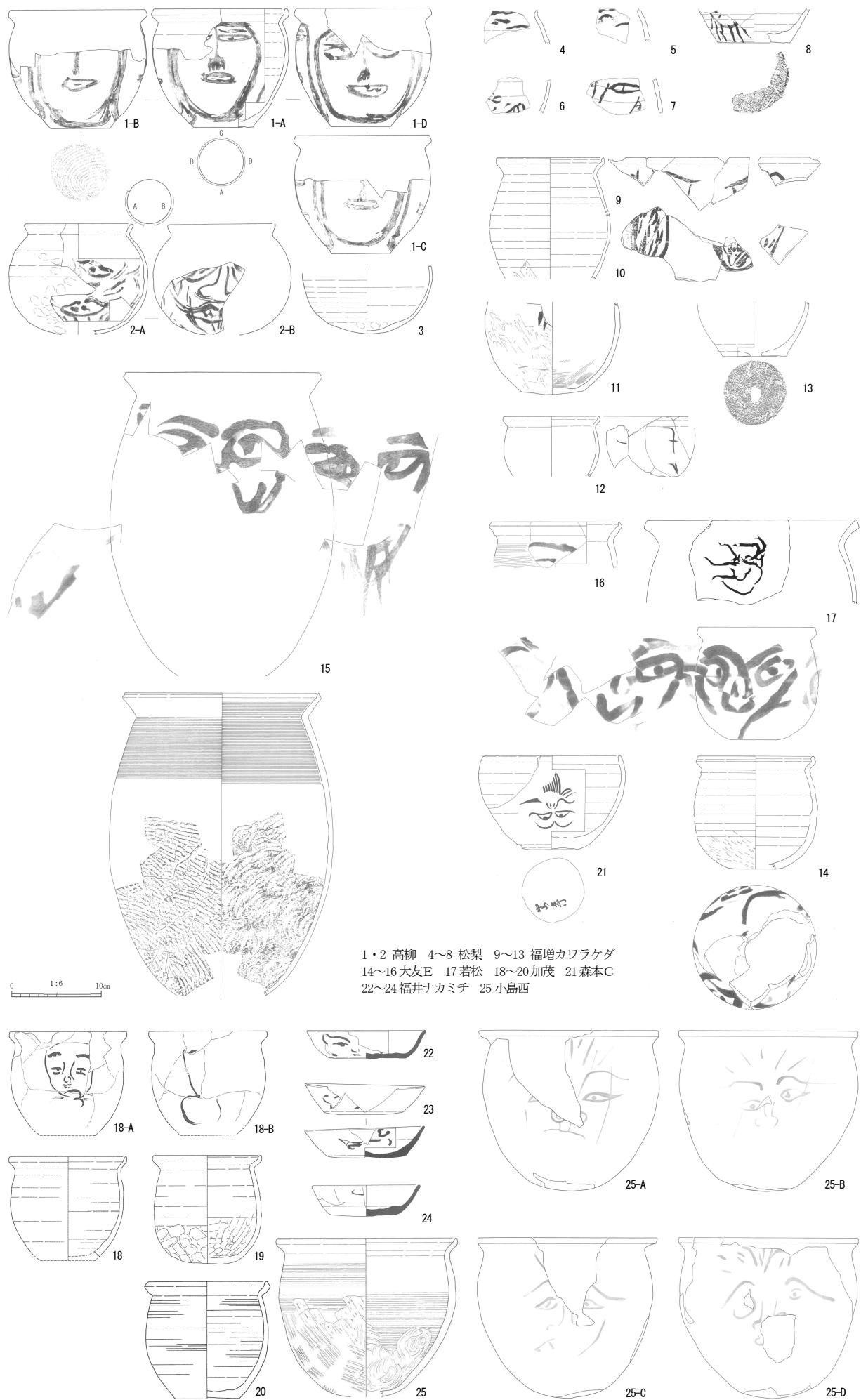
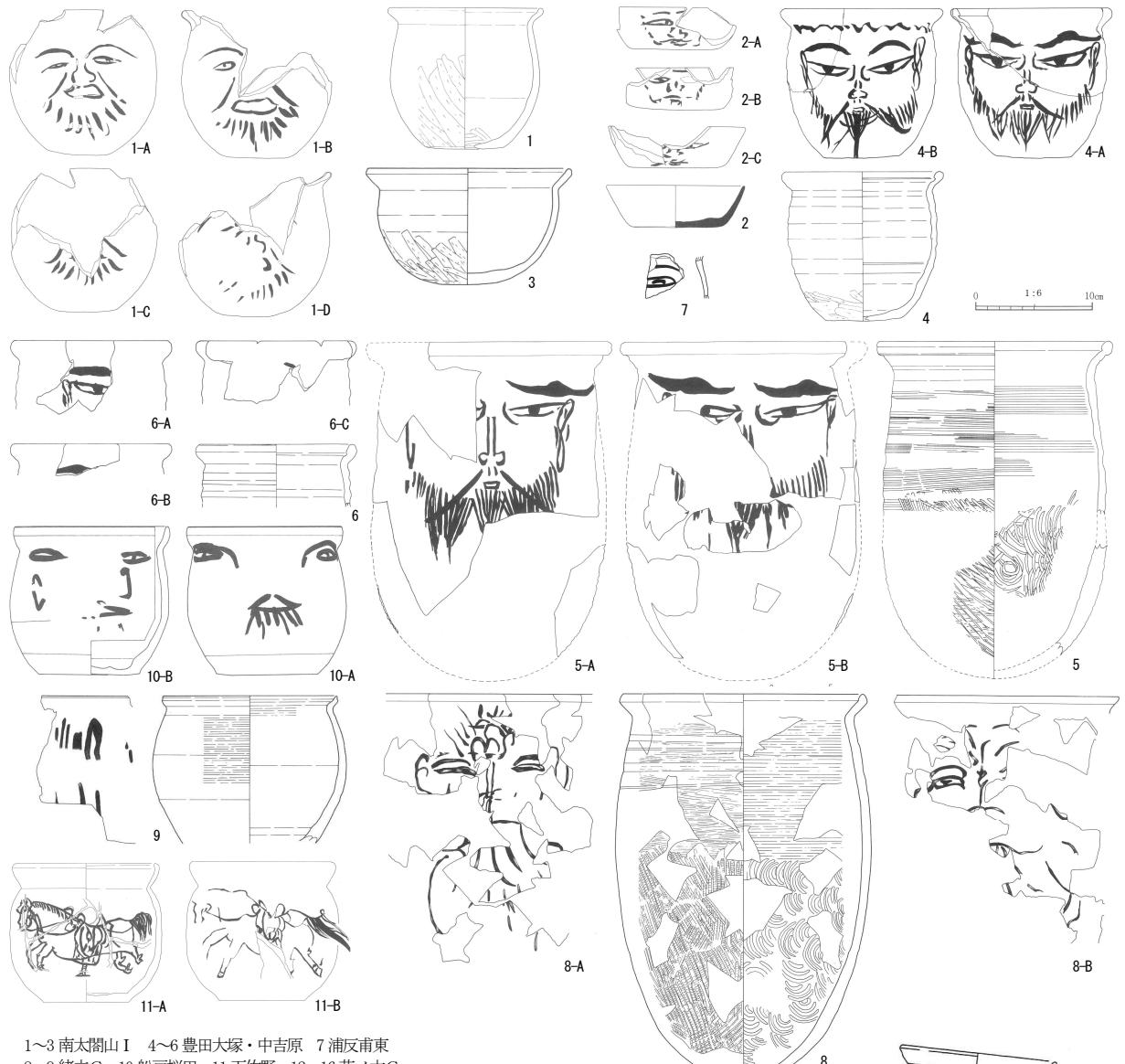


図1 越前国・加賀国・能登国(1)の面墨書き土器 (1:6)



図2 能登国(2)・越中国(1)の人面墨書き土器 (1:6)



1~3 南太閤山I 4~6 豊田大塚・中吉原 7 浦反甫東
8・9 緒立C 10 船戸桜田 11 下佐野 12~16 花ノ木C

北陸道の人面墨書き土器出土遺跡位置図

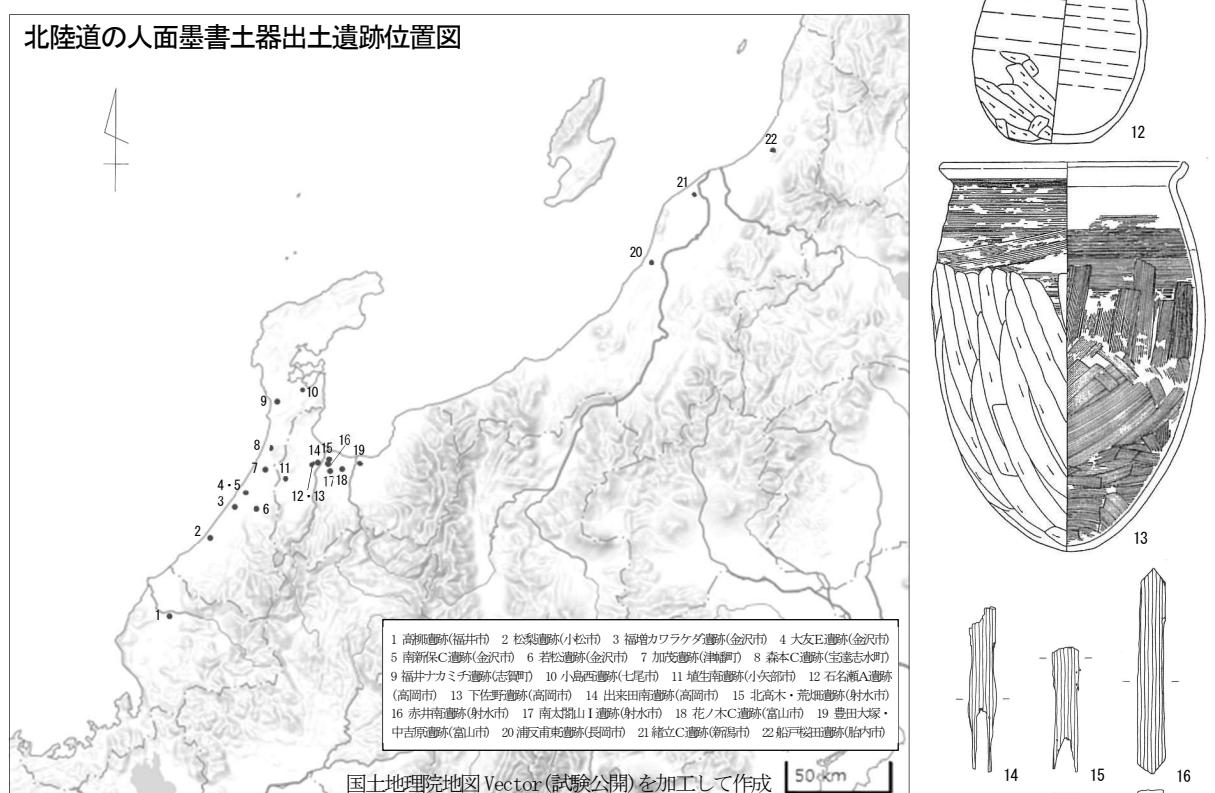


図3 越中国(2)・越後国の人面墨書き土器等 (1:6)

研究報告 2 令和6年能登半島地震における富山藩主前田家墓所 (長岡御廟所) この1年について

鹿島 昌也 納屋内高史 仲あずみ
(埋蔵文化財センター主幹学芸員) (同学芸員) (同学芸員)

はじめに

『富山市の遺跡物語』No.25号で報告した、令和6年1月1日に発生した能登半島地震により被災した富山藩主前田家墓所（長岡御廟所）（以下、墓所と呼称）について、倒壊した藩主墓石や灯籠の一部が長岡御廟保存会（以下、保存会と呼称）によって復旧作業が行われた。市埋蔵文化財センターでは、復旧作業に先立ち、倒壊した石造物の記録作業を行い、石造物を建て直す際に、埋蔵文化財包蔵地の一部地面を掘削する作業が発生するため、保存会から提出された文化財保護法第93条届出を受けて工事立会を実施し、石造物の組み合わせや方向の確認、破損した灯籠の火袋の回収などについて助言などを行ってきた。また、工事立会などの際にみつかり、発掘速報展2024で展示した越中瀬戸焼についても紹介し、発災からの1年間を振り返る。

1 被災状況

墓所内に所在する石造物で、藩主墓・墓前灯籠・寄進灯籠の計530基のうち154基（29%）が全倒壊（基礎・基壇から上部がすべて倒壊）した（表1）。墓所内には、ほかに室子の墓や勝姫の供養塔、手水鉢など約80基の石造物があり、これらには被害はなかったが、明治以降の灯籠15基のうち5基が倒れた。

（1）藩主墓

墓所は藩主墓が所在する区域（内区）と藩主墓域の手前の空間（外区）に分かれ、藩主墓の区域（内区）はさらに西群と北群に分かれて所在する。藩主墓は、初代から11代までが土の方形墳墓の頂上に位牌型の石製墓標（下から墓標台座・塔身・笠）を置く形態で、西群7基、北群4基に12代は方柱形の墓標のみ西群の北辺に所在する。西群の8代前田利謙墓の墓標1基（塔身と笠）が南東方向に倒れた。幸い塔身と笠に割れなどの破損はなかった。

（2）墓前灯籠

内区の各藩主の墓に向かう墓道の両側に複数基ずつ並べられた灯籠で、家臣の寄進灯籠より一回り大きい。

西群に38基、北群に16基の計54基ある内、西群の6基（8代墓前2基、10代墓前3基、11代墓前1基）、北群の3基（2代墓前2基、3代墓前1基）が全倒壊した。

種類	状況	西群	北群	参道	駐車場	合計
藩主墓	未倒壊	6	4	—	—	10
	全倒壊	1	0	—	—	1
	小計	7	4	—	—	11
墓前灯籠	未倒壊	32	13	—	—	45
	全倒壊	6	3	—	—	9
	小計	38	16	—	—	54
寄進灯籠	未倒壊	149	52	70	30	301
	全倒壊	66	62	14	2	144
	宝珠のみ落下	10	7	3	0	20
	小計	225	121	87	32	465
	合計	270	144	87	32	530

表1 藩主墓及び墓前・寄進灯籠被害状況

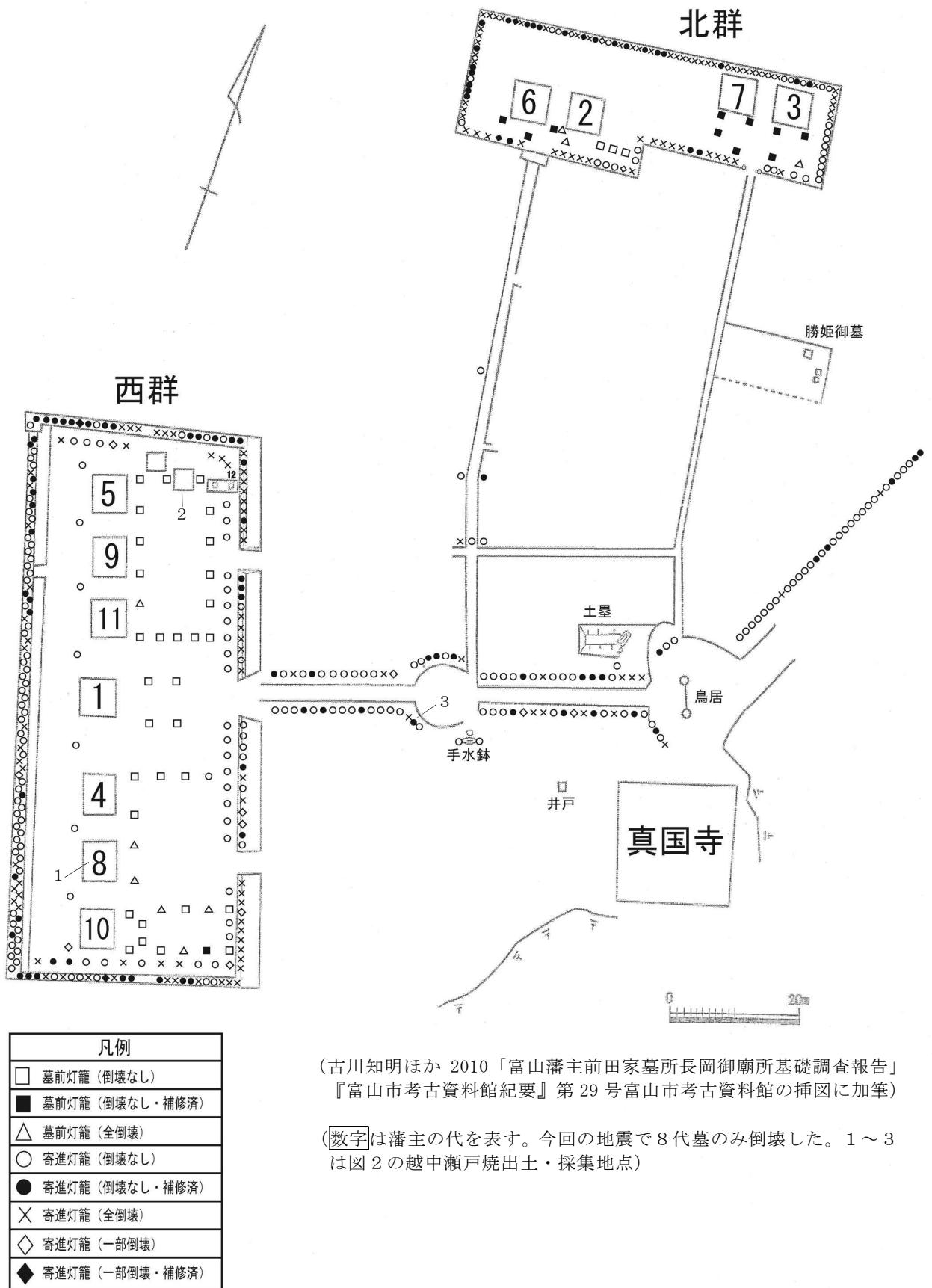


図1 富山藩主前田家墓所（長岡御廟所）における石造物（墓前・寄進灯籠）被災状況

(3) 寄進灯籠

各藩主に仕えた家臣が寄進した灯籠で、元は参道の両側に並んでいたが、昭和時代に移動され、内区や現参道(通路)に再設置された。「長岡御廟所御代々御墓並重臣ヨリ献灯姓名録」(富山県立図書館蔵前田文書 252)には総数 477 基の灯籠の位置と家臣名が記載されているが、現存する灯籠は 465 基(西群 225 基、北群 121 基、参道 87 基、駐車場 32 基)を数える。

地震により西群 76 基、北群 69 基、参道 17 基、駐車場 2 基の計 164 基が全倒壊あるいは一部倒壊(宝珠のみ等)し、うち 144 基が全倒壊した(寄進燈籠のうち約 31%)。転倒した寄進灯籠の部材のうち、火袋部分が割れたり欠けたりしたものが多くみられる。

2 経過

令和 6 年 1 月の地震発生から墓所における埋蔵文化財センターが関わった主な経過を表 2 にまとめた。発災直後は石造物の倒壊など被災状況の把握に努めたが、降雪期でもあり、倒壊石造物の総数把握には 1 か月程度の期間を要した。

2 月以降は、墓所の維持管理を行っている保存会の発注により、①未倒壊であるが余震などによる二次被害防止のため灯籠の部材接合部を補強するためのモルタル塗布等の作業が行われた。次に春の彼岸を前に、②参道や駐車場階段に設置されていて倒壊した灯籠 15 基の復旧作業が行われた。火袋が破損しているものは、火袋を除いて組まれた。引き続いて、③未倒壊であったが灯籠が傾いたものや大きくズレが生じたもの 28 基について、組まれている石材を一度取り外し、基礎の土台部分を安定させた上で再度組み直す作業が行われた。

月	日	内 容
1	1	能登半島地震発生(富山市は震度 5 強)
	2	墓所の現地確認、藩主墓 1 基、灯籠 150 基以上倒壊を確認、県教育委員会へ被害状況を一報
	9	富山新聞に「富山藩主墓倒壊」の記事(真国寺住職対応)
	18	石川県金沢城調査研究所富田和氣夫所長が墓所の被災状況を確認
	29	長岡御廟保存会が二次被害防止のため未倒壊の灯籠 95 基の補強作業の実施を決定
	31	市埋文センター職員が灯籠補強作業前の記録写真撮影、倒壊・未倒壊石造物の総数把握
2	6	保存会発注で、未倒壊灯籠の補強(接合部にモルタル塗布等)作業着手
	22	県教育委員会へ墓所の被害状況の詳細を報告
	26	保存会から傾いた燈籠 28 基を対象とした復旧工事に係る文化財保護法 93 条届出が提出
	28	市埋文センター職員による倒壊灯籠の記録写真撮影着手 ~12 月まで
3	14	保存会発注で、富山市石材加工協同組合 3 社による参道・階段の倒壊灯籠復旧工事
	18	保存会発注で、未倒壊灯籠 28 基(傾いた燈籠など)の工事 (~19 日)
4	17	墓所内民間墓地通路に落下した灯籠部材移動作業の立会
5	22	富山新聞に「8 代藩主の墓 8 月復旧」の記事掲載
6	14	保存会から 8 代藩主前田利謙墓復旧工事に係る文化財保護法 93 条届出が届く
	22	保存会発注で、富山市石材加工協同組合 5 社による 8 代墓復旧工事。
7	25	富山新聞に「藩主の墓、修復完了」の記事掲載
	30	発掘速報展 2024 で富山藩主前田家墓所からみつかった越中瀬戸焼など紹介 (~R7. 1. 19)
8	5	東京大学埋蔵文化財調査室追川吉生氏(江戸富山藩邸の発掘調査を担当)が墓所を視察
	17	富山新聞に「藩主墓の墓に 19 世紀前半の皿」記事掲載

表 2 富山藩主前田家墓所(長岡御廟所)における主な経過(令和 6 年)



①-1 灯籠補強作業（2月）



①-2 接合部モルタル補強



②-1 参道寄進灯籠復旧作業（3月）



②-2 灯籠基礎地盤安定作業



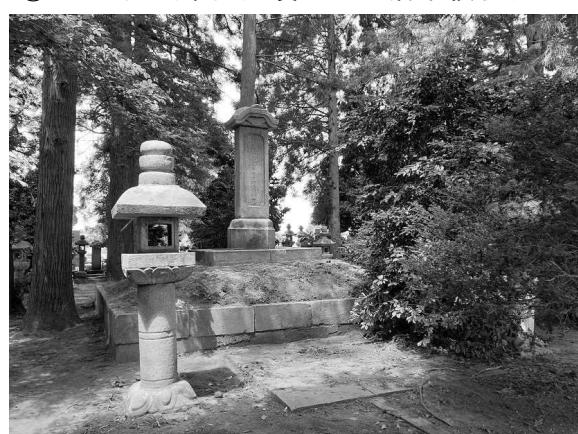
④-1 8代墓復旧作業（東から）（6月）



④-2 正面（東面）墳墓の土層堆積状況



④-3 墓標と基礎の間にステンレス棒挿入



④-4 8代利謙墓及び墓前灯籠復旧後

写真1 石造物補強・一部復旧作業



写真2 8代墓墳丘西面 越中瀬戸焼出土状況（4月）

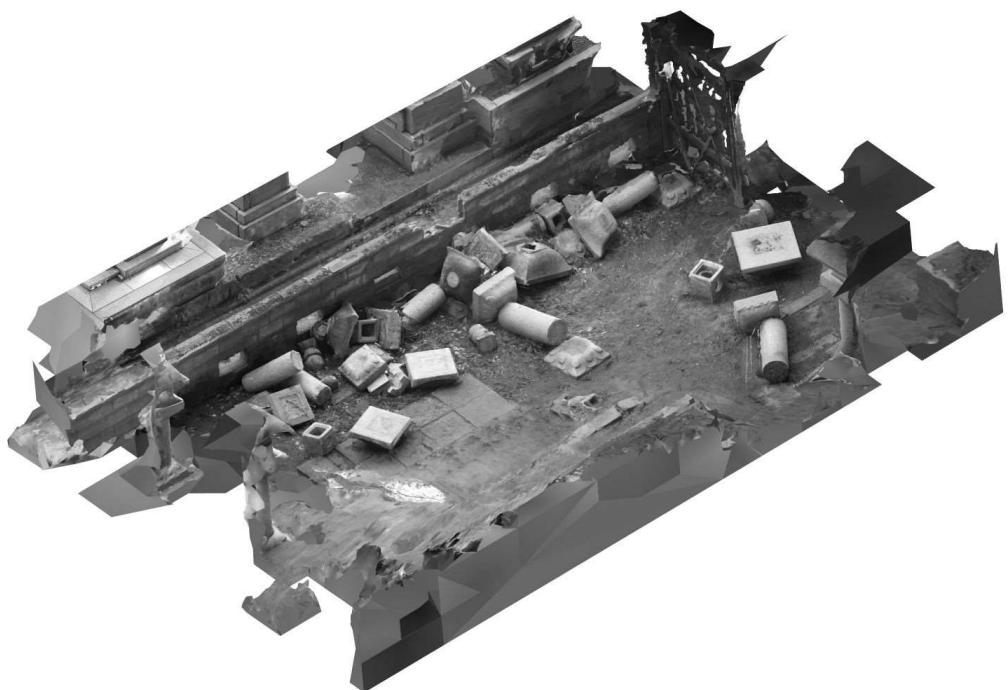


写真3 フォトグラメトリによる被災灯籠の記録画像（北群2代前田正甫墓南側）

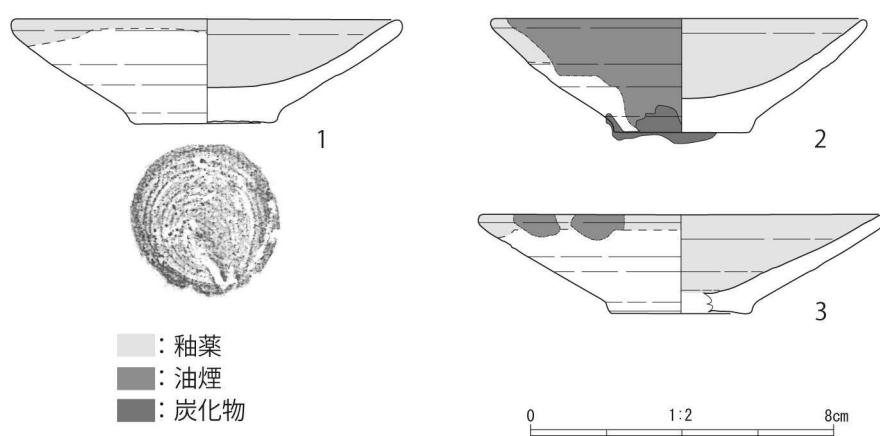


図2 越中瀬戸焼実測図

さらに、8月8日の初代前田利次命日に執り行われる「墓前祭」を前に、④倒壊した8代墓とその墓前灯籠2基の復旧作業が実施された。

①～④の作業にあたっては、いずれも埋蔵文化財センターの学芸員が立会い、灯籠の土台（基礎）下の土の部分を掘削する作業中に遺物が出土しないか、作業状況の写真記録や解体した石材を戻す際の組み方や竿の部分の天地に間違いがないかなど助言を行った。

3 出土・採集遺物について

石造物の補強や復旧作業に先立つ現地確認、作業立会中に江戸時代の越中瀬戸焼の丸皿（1～3）が3点みつかった。

1は4月に墓所内の現地確認に赴いた際に、藩主墓区画の西群に所在する8代前田利謙墓の西面墳丘中から半分ほど露出している状況を確認していた（写真2）。地震で倒壊した8代墓標の復旧作業が6月22日に長岡御廟保存会発注のもと、富山市石材加工協同組合の5社によって実施された。その事前打合せのために現地に赴いた際にこの丸皿が地面に落下していたことから採集した。口径10.3cm、底径4.0cm、器高2.8cmを測る。底部内面に重ね焼きの痕跡、底部外面に回転糸切痕が残る。内面と外面口縁部から体部上部に鉄軸がかかる。

2は藩主墓区画西群の北辺に所在する宝篋印塔形をした大型の石塔である正室集合墓の正面の水鉢と左側の花入の間に供えられていた皿であるが、現地に足を運ぶと、地面に落下していることが度々あり、採集することとした。口径10.0cm、底径3.8cm、器高3.0cmを測る。正室集合墓は、明治38年の改裝の際に新設されたと推測されており、1とほぼ同時期に製作されたとみられるこの丸皿は、江戸後期に築造された墳墓などから出土していたものが、集合墓に供えられたのだろう。炭化物が付着し、灯明皿などとして再利用されたようである。

3は3月の参道で倒壊した寄進灯籠復旧作業の際に、灯籠基礎部の脇で表採した。口径10.5cm、底径3.8cm、器高2.6cmを測る。

1、2については、令和6年7月から令和7年1月まで開催した発掘速報展2024にて展示した。

おわりに

能登半島地震で全倒壊した石造物154基のうち、長岡御廟保存会によって藩主墓1基、墓前灯籠2基、寄進灯籠19基の計22基が復旧されたが、未だに132基の灯籠が倒壊したままになっており、復旧の目途は立っていない。

一方で、これまで発掘調査が実施されていないことから、墓所の造営時期を特定できる遺物は見つかっていないかったが、石造物の復旧工事立会などで現地に赴いた際に、江戸期の越中瀬戸の丸皿などを採集することができ、造営時期を特定する手掛かりが得られた。

とくに1の丸皿は、出土した墳丘の上に8代利謙の没年月日である享和元（1801）年8月26日が刻まれた墓標が建つことから、墳丘築造時に副葬されたと推測できる。19世紀初頭に製作されたことが特定できる貴重な資料となった。

野垣 好史 (埋蔵文化財センター 専門学芸員)

小黒 智久 (富山市考古資料館 主幹学芸員)

はじめに

令和 5 年度、富山市考古資料館において民俗民芸村連携企画展「呉羽丘陵」の一環として、企画展「杉谷古墳群・杉谷 A 遺跡の全貌～日本海文化論の現在～」が開催された。本展の開催を契機として、筆者らは本誌前号において杉谷 A 遺跡出土鉄器のうち未報告の小形鉄器 6 点の報告を行った（野垣・小黒 2024）。この作業によって鉄器の様相がより明らかになったことを受け、本稿ではまず杉谷 A 遺跡出土鉄器の歴史的意義について検討したい。

また、令和 5 年度に杉谷 A 遺跡内で試掘調査が行われ、新たに方形周溝墓 2 基が検出された（堀内 2024）。この調査成果を踏まえつつ、杉谷 A 遺跡の方形周溝墓群について、その形態と分布・時期との関係といった築造動向に関する若干の検討を行いたい。文責は、それぞれの執筆部分の末尾に示した。

（野垣・小黒）

1 出土鉄器からみた杉谷 A 遺跡の歴史的意義

本遺跡では、昭和 49 年度の発掘調査で方形周溝墓 17 基、円形周溝墓 1 基、土壙 2 基が確認されており（富山市教委 1975）、方形周溝墓は溝の四隅を掘り残す A 群と溝が全周する B 群に大別される。さらに、A 群は近接する墓が溝を共有する A-I 類と共有しない A-II 類にわかれる。周溝墓群は盟主的な大型墓（周溝を含む一辺約 11m）と小型墓（同 5~6m）がある（富山市教委 1975, p. 3）。周溝内でも埋葬が行われ、さまざまな墓が大きさの違いをもって存在し、杉谷古墳群が隣接することから、この地の集団は墓の形や規模に階層差が明示されていたことがわかる。

前稿によって、杉谷 A 遺跡にもたらされた鉄器の概要が鮮明になった（表 1）。大型墓に多く副葬されたことがわかる（図 1）。小型墓からの出土例（副葬品）は、第 2 号方形周溝墓の素環頭鉄刀が唯一である（写真 1）。同資料は、第 3 号方形周溝墓出土品と同型式で、墳丘規模の差からも、第 3 号方形周溝墓の被葬者から分与されたと判断するのが妥当だろう。それは、同被葬者、もしくは同被葬者の葬送儀礼執行者が小型工具を主体としつつも、本遺跡で最多となる鉄器副葬を実現できるほど、多くの鉄器を入手できたからこそその判断である。

このほか、本遺跡では、鉄素材もしくはその可能性がある鉄片（廃鉄片）が目立つ点も重要である。本遺跡周辺の集落の様相が不明瞭のため、鍛冶工房などは明らかになっていないものの、鉄素材が副葬された方形周溝墓の被葬者は、始原的（村上 1998, pp. 91-94, 2001, pp. 58-63）あるいはプリミティブ（松井 1999, p. 260, 2001, p. 195）な鍛冶、すなわち棒状鉄器を叩き延ばし、鑿で切断して製品に加工する工程に従事する工人を掌握していた、または自ら従事していた可能性もあるのではなかろうか（小黒 2023a, p. 101, 2023b, p. 36）。なお、弥生時代後期後半～古墳時代前期前葉の打出遺跡では、始原的な鍛冶が実際に行われた可能性が高い。鉄鎌や切出形のナイフなどの小型品は十分に製作できる状況にあったと考えられる（小黒 2006, p. 189, 2009, p. 277, 2023a, pp. 88-96, 2024, p. 11）。このような鉄器生産が杉谷 A 遺跡周辺でも行われていた可能性が想定できるようになったことが、近年の調査研究成果と言えるだろう。

さて、本遺跡は第 1・2 号方形周溝墓出土土器の年代観から、月影式期に比定してきた。両墓出土土器のうち、第 2 号方形周溝墓の方が若干新相を呈する可能性（富山市教委 1975, pp. 7-9）が指摘され、古川知明氏（古川 1999, p. 127）など近年の多くの研究でも報告資料を主たる根拠に月影 II 式期との評価が通説化してきた。このようななか、高橋浩二氏らはこれ

表1 杉谷A遺跡出土金属製品一覧（野垣・小黒2024を一部改変）

出土遺構等	種別	性格	文献・備考
第1号方形周溝墓(主体部)	ヤリガンナ(鉄素材に転用か)	副葬品	小黒2003
第1号方形周溝墓(南溝)	棒状鉄片(鉄素材か)	副葬品(主体部削平時の移動か)	野垣・小黒2024
第2号方形周溝墓(主体部)	素環頭鉄刀	副葬品	素環刀IV式(豊島2010)
	素環頭鉄刀		素環刀IV式
第3号方形周溝墓(割竹形木棺)	鉄素材(板状鉄片が複数銹着)	副葬品	林・佐々木2001
	ヤリガンナ(鉄素材に転用か)		野垣・小黒2024
第3号方形周溝墓(南溝中層)	ヤリガンナ	副葬品(主体部削平時の移動か)	野垣・小黒2024
第3号方形周溝墓	ヤリガンナか	副葬品か	野垣・小黒2024
第3号方形周溝墓	方形板刃先か	副葬品か	野垣・小黒2024
第6号方形周溝墓(周溝内の主体部か)	刀子か	副葬品か	野垣・小黒2024
第10号方形周溝墓(割竹形木棺)	有茎三角形銅鏃	副葬品	
第17号方形周溝墓(箱形木棺)	短剣	副葬品	
第17号方形周溝墓	不明鉄器	副葬品か	野垣・小黒2024

まで報告されていない土器の一部（大部分は細片）の実測調査報告（高橋ほか2022）を行った。第3号方形周溝墓は月影式期を中心としつつ、白江式期以降の可能性も示唆した。第6号方形周溝墓は白江式期から古府クルビ式期を前後する時期、すなわち第1・2号方形周溝墓よりも新しい時期であるこ

とを示した。第10号方形周溝墓は月影式期を中心に白江式期古相（漆町5群期）までの幅におさまり、月影I式期を中心とする土器も含まれる。そして、第12号方形周溝墓は月影II式期を中心には比定できると総括（pp.89-90）した。

このような調査研究の進展により、月影II式期に集中的な造墓活動が行われたとの理解が、必ずしもそうとは言えない可能性も生じてきたことに意義がある。もちろん、当該土器自体の時期比定はさておき、その出土層位の評価は別途行われる必要がある。それによって、各墓の時期を厳密に推定する必要があるからである。墓が密集する以上、葬送儀礼の執行／片付け後に墳丘上で放置された土器が周溝内に転落したり、墳丘の削平時などに破損したりすることは当然にありうるのであり、周溝内への埋没も時間差が生じうるのである。また、墓域として利用される以前に土地利用された際の混入品ほかの可能性もある。それゆえ、周溝の上層などから出土した土器片であれば、周溝底部付近から良好に遺存する土器との接合関係が認められるなどの状況証拠がなければ、時期比定の根拠資料として評価すべきではない。このような資料の点検は本稿でもできていないが、近年の評価よりも一段階遡る時期から古墳時代前期前葉に降るまでの時期幅で本遺跡の方形周溝墓群を捉える必要が明らかにされたことは重要な成果である。

本遺跡における鉄器副葬は、銅鏃の副葬とあわせ、月影II式期には行われていた。最寄りの首長墓は杉谷4号墳（四隅突出型墳丘墓）で、同墓は出土土器から月影II式期～白江式期（漆町4～5群期、古川1999, p.128）、白江式期を中心とする時期（高橋2019, p.54）に比定されている。筆者自身は漆町5群期に比定してきた（小黒2007第2図、2009表2、2023a図47など）が、この見解が的を射ているならば杉谷4号墳に先立って杉谷A遺跡第1・2号方形周溝墓に鉄器が副葬され、第3号方形周溝墓にも副葬されていた可能性がある。もちろ



写真1 第2号方形周溝墓の素環頭鉄刀出土状況

ん、杉谷 4 号墳の被葬者の政治的／経済的活動時期や没年齢などとの関係から、方形周溝墓群との時期差が生じることはありうる。ただ、杉谷 A 遺跡の副葬品群の入手契機を考える際は、第 1・3 号方形周溝墓から北西約 100m の杉谷 4 号墳のほか、北西約 280m の杉谷 6 号墳（長方形墳丘墓、辺長約 50m）、北東約 560m の杉谷 8 号墳（方形墳丘墓、辺長約 35m）といった首長墓に着目する必要がある。先後関係はあるが、いずれもほぼ同様の時期と想定され、第 1 主体部陥没坑出土土器から杉谷 8 号墳が本古墳群形成の嚆矢と考えられる。杉谷 A 遺跡の周溝墓群は、各首長墓の被葬者の麾下にあった階層の集団墓と推定できる。素環頭鉄刀やガラス小玉など、首長層の交易によって入手した一部が首長層から与えられ、副葬されたと考えられる（小黒 2023a, p. 101）のである。鉄器（素環頭鉄刀、織物に包まれたヤリガシナ欠損品など）やガラス小玉からみる限り、関係先の一つが越前である（小黒 2023a, pp. 101-103, 2023b, pp. 34-38）。（小黒）

2 杉谷 A 遺跡における方形周溝墓の築造動向

杉谷 A 遺跡は、昭和 49 年度の発掘調査で方形周溝墓 17 基、円形周溝墓 1 基が確認されており、令和 5 年度、駐車場造成に伴い埋蔵文化財センターが試掘調査を実施したところ、新たに方形周溝墓 2 基を確認した（堀内 2024、以下、堀内報告とする）。試掘調査のため不確定な点を含むものの、この成果を踏まえ方形周溝墓の築造動向に関して若干の考察を行いたい。なお、表記の簡略化のため、以下では昭和 49 年度発掘調査を「S49 発掘」、令和 5 年度試掘調査を「R5 試掘」とする。また、方形周溝墓の形態分類は、前項 1 の冒頭に記した富山市教委 1975 に拠る。

R5 試掘の概要 堀内 2024 に拠りつつ、まず R5 試掘の概要を確認する。堀内報告は、紙幅の関係から詳細な説明は省略されているため、示された図を参照しつつ適宜補って記したい。試掘調査地点は S49 発掘地点の北西側、杉谷 4 号墳からみると南東側隣接地にあたる。900 m²を対象にした試掘調査で、5 本の試掘トレンチを掘削し、方形周溝墓とみられる周溝の一部のほか、溝、古代の焼壁土坑などを確認した。方形周溝墓は 2 基分の周溝があるとされている。S49 発掘で確認された方形周溝墓からの連番で、検出された 2 基を第 18・19 号方形周溝墓と呼称する。推定された復元状況は図 1 のとおりである。

第 18 号方形周溝墓は、北東辺にあたる周溝の一部が確認され、周溝の検出長 7.6m、幅 2.0 m、深さ 0.26m である。周溝の四隅を掘り残す A 群で、復元規模は、堀内報告によると本遺跡で大型の第 3・10 号方形周溝墓と同程度の 8.5～9m 程度（規模は周溝内側下端を基準に計測。以下同）と推定されている。しかし、第 3 号方形周溝墓は周溝一辺の長さが 4.9～5.4m 程度であり、周溝一辺の長さが 7.6m 以上ある第 18 号方形周溝墓は、復元規模が 10m を超える可能性が高く、その場合は本遺跡最大規模となる。主軸方向は N-42° -E である。

第 19 号方形周溝墓は、直角に曲がる周溝の隅角部が検出され、周溝が全周する B 群の可能性が高い。検出長 3.8m、幅 0.8m、深さ 0.4m である。堀内報告では、S49 発掘の B 群である第 14・15 号方形周溝墓とほぼ同規模と推定されている。主軸方向は N-11° -E である。

第 18・19 号方形周溝墓は、重複関係にあることが明らかだが、試掘トレンチ内で遺構どうしの直接の切り合は確認できていないため、新旧関係は不明である。また、部分的な遺構掘削しか行っていないため周溝から遺物は出土していない。なお、第 18 号方形周溝墓の周溝から約 20m 北の溝からは月影 II 式期の壺が出土している。

杉谷 A 遺跡方形周溝墓の築造動向 第 18・19 号方形周溝墓が検出された R5 試掘区と、第 1～17 号方形周溝墓が検出された S49 発掘区は、いずれも A 群と B 群の方形周溝墓が検出されているが、両調査区で共通する点が 2 つある。

一つは、両調査区とも A 群と B 群の方形周溝墓に重複関係が認められることである。R5 試掘区は上記したとおりで、S49 発掘区は東端部で 3 基検出されている B 群（第 14～16 号方形

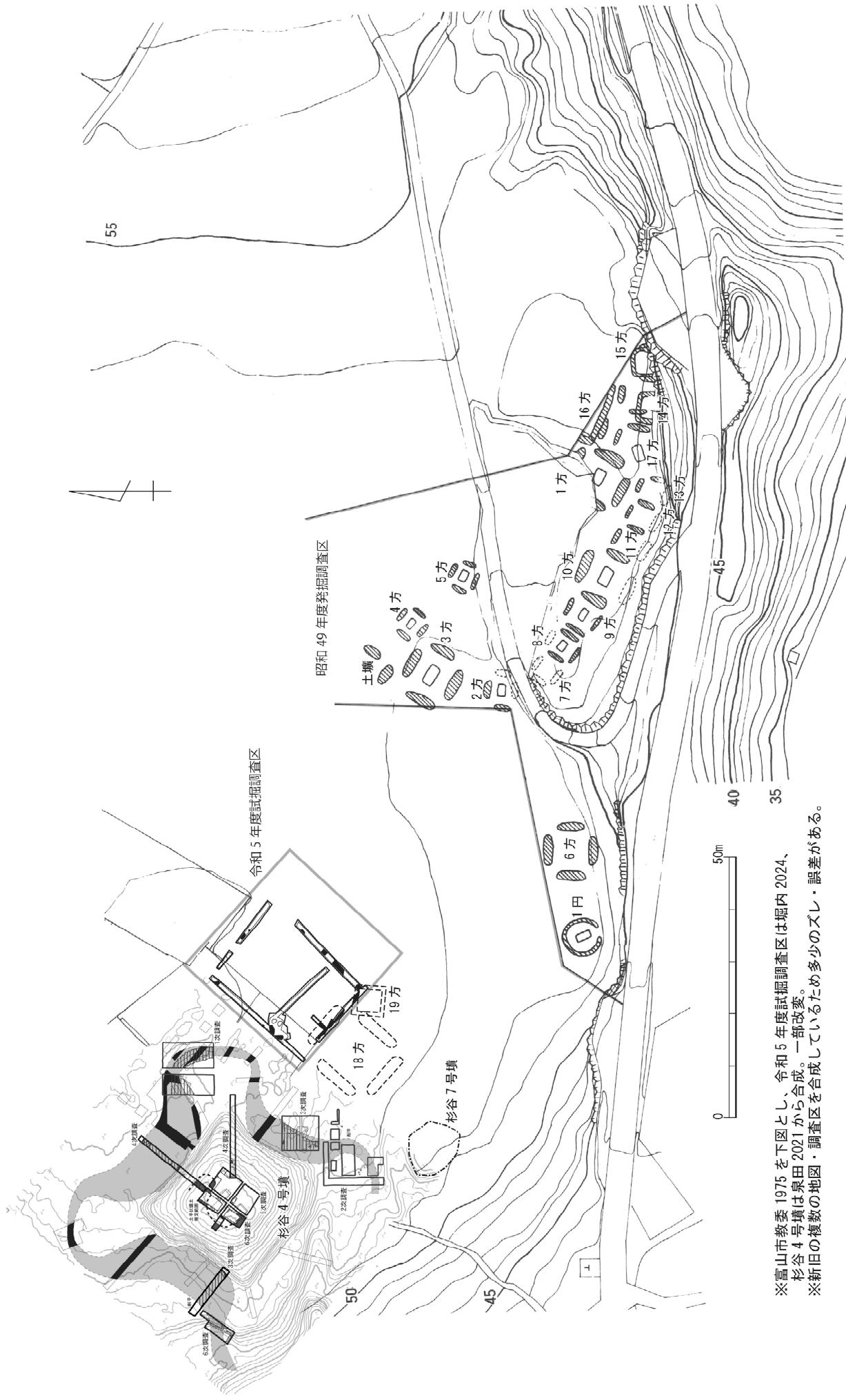


図 1 杉谷 A 遺構の遺構配置図

周溝墓) が A 群と重複している。この新旧について、第 15 号方形周溝墓 (B 群) と A 群の切り合いで A 群の方が新しいとされており (富山市教委 1975, p. 7)、B 群→A 群の築造順が考えられる。既存の B 群を壊して A 群方形周溝墓が築造されたとみられる。また、両調査区のもう一つの共通点は、A 群、B 群それぞれの主軸方向の違いである。A 群は四方位からみて斜めの軸を見るものが多いのに対し、B 群は四方位に近い軸をとる。

杉谷 A 遺跡における A 群と B 群に関する上記 2 点の事実、すなわち両群が重複関係にあること、両群に主軸方向の違いがあることは、B 群と A 群の築造に大きな乖離があることを示唆している。A 群の方形周溝墓どうしが、一部は周溝を共有しながら整然と築かれていることとは対照的である。A 群と B 群は、時期差と同時に築造主体の違いも想定できるかもしれない。なお、四隅突出型墳丘墓の杉谷 4 号墳は、第 18 号方形周溝墓と主軸が一致しており、A 群方形周溝墓との関係が強い。

百塚住吉遺跡・百塚遺跡の方形周溝墓との比較 百塚住吉遺跡・百塚遺跡は、杉谷 A 遺跡から北東 7.5 km の呉羽丘陵の先端部に立地する。弥生時代後～終末期の方形周溝墓 13 基、円形周溝墓 5 基が、古墳と混在しつつ検出されており (富山市教委 2009・2012)、その築造には、以下のとおり杉谷 A 遺跡との共通性がみられる。13 基の方形周溝墓のうち、11 基は周溝の四隅を掘り残す、あるいはその可能性が高いもの (以下、杉谷 A 遺跡に準じて A 群と呼称)、その他 2 基は、周溝が全周するもの (同 B 群) と一辺の中央が途切れるもの (新たに C 群とする) であるが、分布をみると、A 群の 11 基は台地南側の標高が高い地点に集中して、ほぼ軸を揃えているのに対し、B・C 群の 2 基は北側の標高の低い場所に離れて築かれている。この分布の違いは、杉谷 A 遺跡でみた A 群・B 群の違いと同様、A 群とそれ以外 (B・C 群) の方形周溝墓が異なる背景をもって築かれたことを示している。

このことは時期を踏まえるとより鮮明になる。小黒 2009・鹿島 2012 を参照して、時期が判明する方形周溝墓を整理すると、A 群は、法仏 I・II 式期に 20m 程度の大型墓 2 基を含む一群が築かれ、その後月影 I 式期は空白期となった後 (註)、月影 II 式期に再び 6～12m 程度の小～中型規模のものが築かれる。注意されるのは、A 群が空白期となる月影 I 式期を中心とする時期に、B・C 群の 2 基が築かれたと推定されていることである。本遺跡では、単純に B 群→A 群という築造順序とはならない点は杉谷 A 遺跡と異なり、また時期不詳の方形周溝墓もあるため不確実な点は残すものの、現状で明らかに築造時期の傾向に違いがある点は、両群の差異を浮き彫りにする。

以上のとおり A 群とそれ以外 (B・C 群) の方形周溝墓は、分布だけでなく時期に関しても排他的ともいえる様相をみせており、両者が一連の系譜の中で築造されたのではないことを強く示唆する。杉谷 A 遺跡と同様、単なる時期差ではない事柄に起因する可能性が高い。

円形周溝墓との関係 最後に円形周溝墓との関係を確認しておきたい。百塚住吉遺跡・百塚遺跡において円形周溝墓は、A 群方形周溝墓と同じ分布域に重複なく築かれており、また時期が判明するものは、いずれも A 群方形周溝墓と同じ月影 II 式期に位置づけられる。言い換えると A 群方形周溝墓は、B 群方形周溝墓よりも円形周溝墓と親縁性が高い状況が見て取れる。一方、円形周溝墓が 1 基確認されている杉谷 A 遺跡は、百塚遺跡ほど方形周溝墓との関係を明確にしにくいが、上記した A 群方形周溝墓と B 群方形周溝墓との違いに比べれば、分布状況から見る限りやはり A 群との関係が強いように思われる。

呉羽丘陵の上記 2 地域に関しては、対比されることの多い方形周溝墓か円形周溝墓かという違いより、むしろ方形周溝墓どうしの違い、すなわち A 群とそれ以外 (B・C 群) の方が、より根幹的な違いを反映しているのではないか。まだ明確な根拠はないもののその内容をあえて言及するなら、重複がない分布状況や主軸の一致から、A 群方形周溝墓と円形周溝墓は同一集団による一連の系譜のなかで築かれたのに対し、B・C 群方形周溝墓はそれらとはまた別の集団による築造が想定できるかもしれない。

(野垣)

おわりに

本稿では、杉谷 A 遺跡出土鉄器の歴史的意義を検討し、また方形周溝墓の築造動向について粗い見通しを示した。杉谷 A 遺跡は、それ単独での重要性はもとより、周囲にある杉谷古墳群との関係を含め、富山平野の古墳出現期を探るうえできわめて重要な位置を占める。上記したような新たな調査や検討を重ねることで、当該期の様相がより鮮明になると考えられる。

(野垣)

註 鹿島 2012 の編年表 (p. 274) では、月影 I 式期の方形周溝墓として「百塚住吉 SZ05」を挙げているが、これは報告書本文では「古墳」とされる。一方、古府クルビ式期の古墳として「百塚住吉 SZ06」が表記されているが、これは本文では「方形周溝墓」である。小黒 2009 にある百塚住吉 SZ06 の時期も考慮すれば両者は逆転して誤記されたことが明らかであり、月影 I 式期になるのは本来、百塚住吉 SZ06 であろう。この百塚住吉 SZ06 は全周タイプ (B 群) の方形周溝墓である。

引用・参考文献

- 小黒智久 2006 「打出遺跡の弥生～古墳時代鉄器」『富山市打出遺跡発掘調査報告書』富山市教育委員会
- 小黒智久 2007 「平成 17 年度シンポジウム 北陸の古墳編年の再検討 越中における古墳編年」『阿尾島田古墳群の研究－日本海中部沿岸域における古墳出現過程の新研究－』富山大学人文学部考古学研究室
- 小黒智久 2009 「百塚住吉遺跡・百塚遺跡のいわゆる出現期古墳が提起する問題」『富山市百塚住吉遺跡・百塚住吉 B 遺跡・百塚遺跡発掘調査報告書』富山市教育委員会
- 小黒智久 2023a 『コシの古墳と地域社会』雄山閣
- 小黒智久 2023b 「杉谷古墳群・杉谷 A 遺跡の全貌～日本海文化論の現在～」『富山市民俗民芸村連携企画展 吳羽丘陵』富山市民俗民芸村
- 小黒智久 2024 『打出遺跡と弥生時代の鉄器づくり』陶芸館・考古資料館連携企画展「鉄を活かす人びと」II 展示解説図録 富山市考古資料館
- 鹿島昌也 2012 「総括」『富山市百塚遺跡発掘調査報告書』富山市教育委員会
- 泉田侑希 2021 「遺跡速報 富山県富山市杉谷古墳群」『考古学ジャーナル』No.756 ニューサインエス社
- 高橋浩二 2019 「杉谷 4 号墳出土土器の編年的位置づけ」『杉谷 4 号墳－第 6 次発掘調査報告書－』富山大学人文学部考古学研究室
- 高橋浩二・小島布由美・関口美南・橋本すず・星野佑稀・松浦悠太・水島りさ子 2022 「富山市杉谷 A 遺跡出土土器の実測調査とその評価」『大境』第 41 号 富山考古学会
- 富山市教育委員会 1975 『富山市杉谷 (A・G・H) 遺跡発掘調査報告書』
- 富山市教育委員会 2009 『富山市百塚住吉遺跡・百塚住吉 B 遺跡・百塚遺跡発掘調査報告書』
- 富山市教育委員会 2012 『富山市百塚遺跡発掘調査報告書』
- 豊島直博 2010 『鉄製武器の流通と初期国家形成』独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所
- 野垣好史・小黒智久 2024 「杉谷 A 遺跡出土鉄器について」『富山市の遺跡物語』No.25 富山市教育委員会埋蔵文化財センター
- 古川知明 1999 「杉谷古墳群」『富山平野の出現期古墳』富山考古学会
- 堀内大介 2024 「新たな方形周溝墓を確認 杉谷 A 遺跡」『富山市の遺跡物語』No.25 富山市教育委員会埋蔵文化財センター
- 松井和幸 1999 「堅穴住居跡出土鉄器について」『和田原 D 地点遺跡発掘調査報告書』(財)広島県埋蔵文化財センター
- 松井和幸 2001 『日本古代の鉄文化』雄山閣
- 村上恭通 1998 『倭人と鉄の考古学』青木書店
- 村上恭通 2001 「日本海沿岸地域における鉄の消費形態－弥生時代後期を中心として－」『古代文化』第 53 卷第 4 号 古代学協会

令和 6 年度 富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報

富山市の遺跡物語 No.26

令和 7 (2025) 年 3 月 31 日発行

編集・発行 富山市教育委員会埋蔵文化財センター

〒939-2798 富山市婦中町速星 754 婦中行政サービスセンター3 階

TEL : 076-465-2146 FAX : 076-465-5032

Email : maizoubunka-01@city.toyama.lg.jp

印 刷 有限会社ヤツオ印刷